

上場会社名 株式会社タムラ製作所
証券コード 6768
東京証券取引所 第一部上場

株式会社タムラ製作所

2017年3月期 決算概要

2017年5月15日



TAMURA

Your One and Only Company

1. 2017年3月期 決算概要
2. 2018年3月期 通期業績予想
3. トピックス
 - ・中期経営計画の進捗
 - ・車載関連の取り組み

【付録】参考資料

1. 2017年3月期 決算概要

- 売上高は減収ながら、営業利益は1997年度(5,048百万円)以来の過去最高益を更新
- 経常利益は為替差損の影響が縮小し増益。親会社株主帰属当期純利益は、税金費用の圧縮もあり、2014年度(3,106百万円)を超える過去最高益

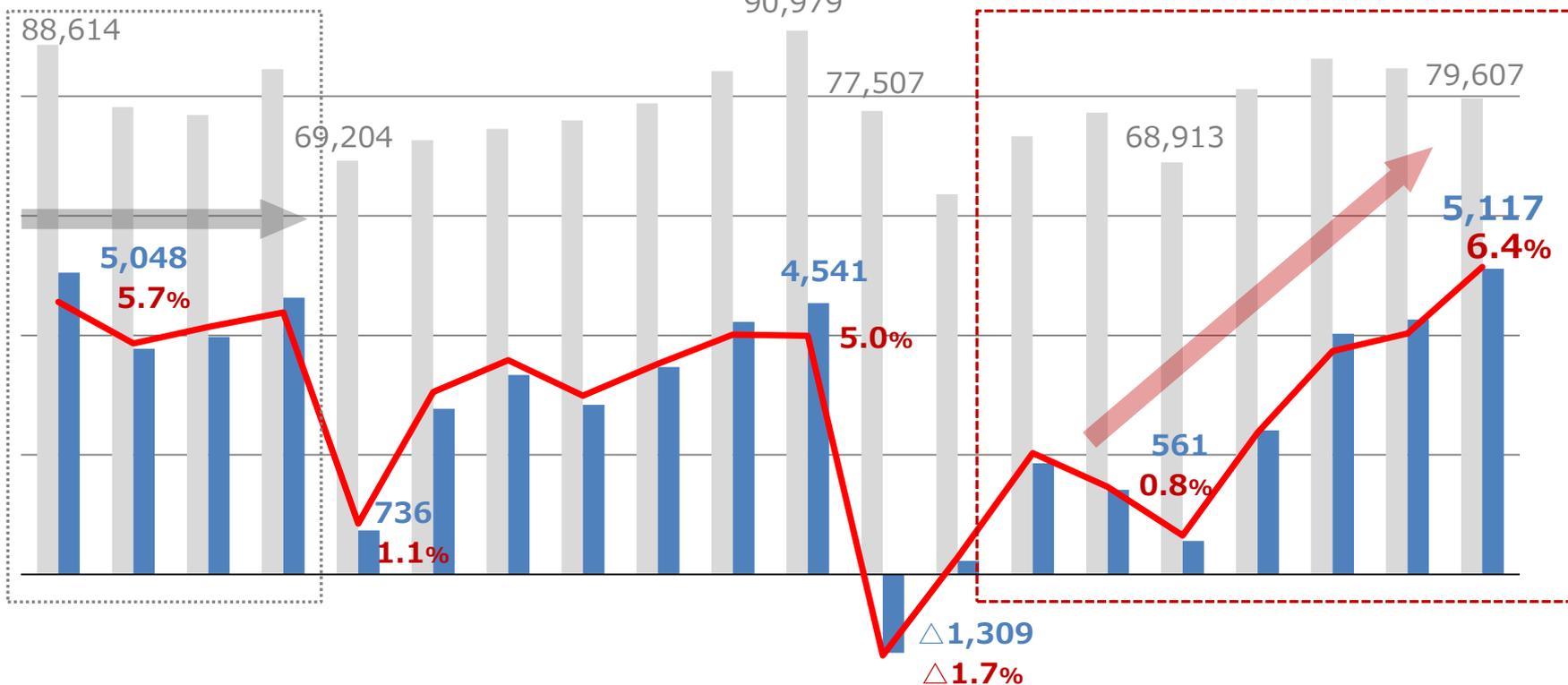
[百万円]

	FY2015	FY2016	対前年 増減	前年比
売上高	84,642	79,607	△5,035	△6%
営業利益	4,266	5,117	850	+20%
営業外損益	△338	△ 26	311	—
経常利益	3,928	5,091	1,162	+30%
特別損益	△369	△ 305	64	—
税引前利益	3,558	4,785	1,227	+34%
親会社株主帰属 当期純利益	1,783	3,727	1,944	+109%
ROE	4.8%	10.0%	5.2%	—
対米ドル為替レート				
期中平均 (4-3月)	119.15円	107.98円	△11.17円	△9%
期末 (3月末)	112.68円	112.19円	△0.49円	△0%

タムラグループ売上高・営業利益 長期推移

■ 売上高(百万円) ■ 営業利益(百万円) — 営業利益率(%)

売上拡大による利益拡大



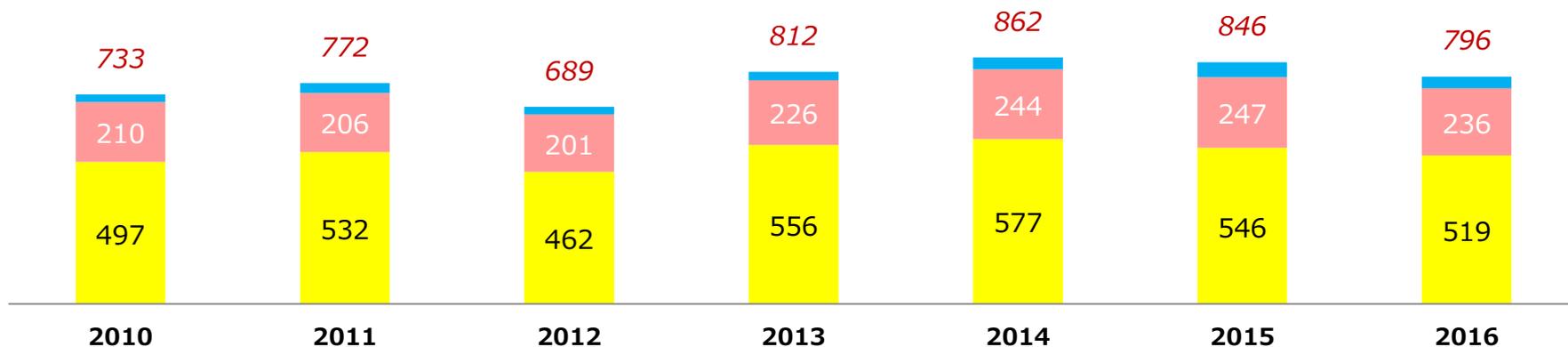
収益性第一の中期計画を推進

Year	Sales (百万円)	Operating Profit (百万円)	Operating Profit Rate (%)
1997 ITバブル (これまでの過去最高益)	88,614	5,048	5.7%
2001 ITバブル崩壊	69,204	736	1.1%
2007 戦後最長景気	90,979	4,541	5.0%
2008 リーマンショック	77,507	△1,309	△1.7%
2012 東日本大震災翌年	68,913	561	0.8%
2016 過去最高益更新	79,607	5,117	6.4%

収益改善の背景①：電子部品事業の収益改善

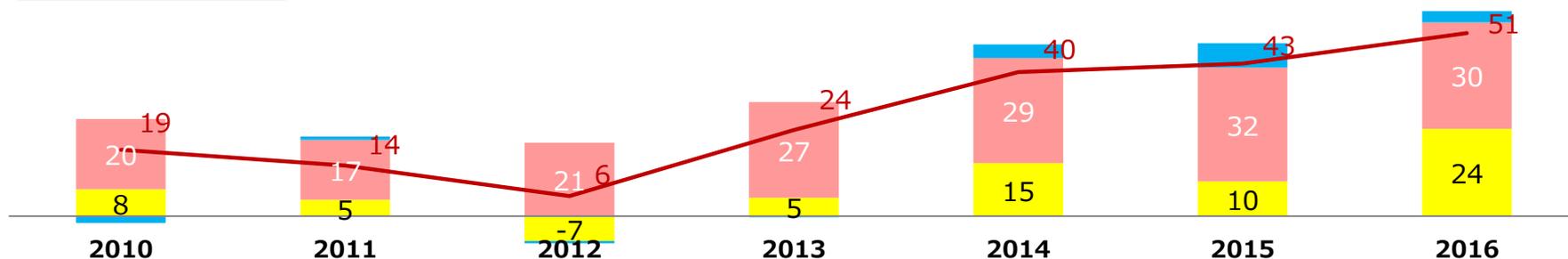
売上高

■ 電子部品関連事業 ■ 電子化学実装関連事業 ■ 情報機器関連事業 ## 連結売上 [億円]

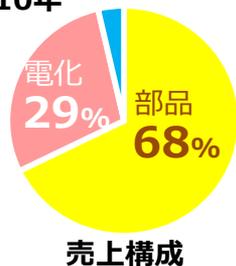


営業利益

■ 電子部品関連事業 ■ 電子化学実装関連事業 ■ 情報機器関連事業 ## 連結営業利益 [億円]

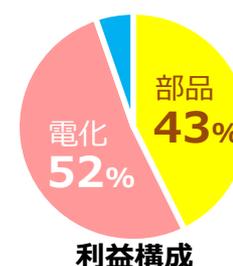


2010年



電子部品利益
占有率増加
(28%→43%)

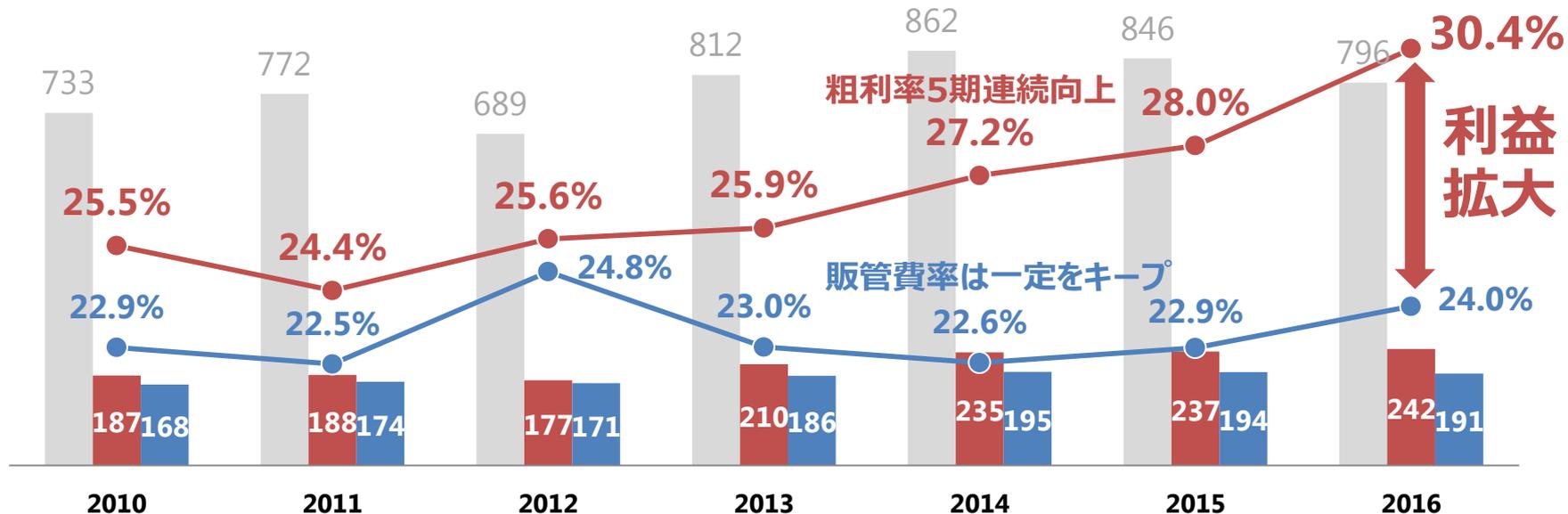
2016年



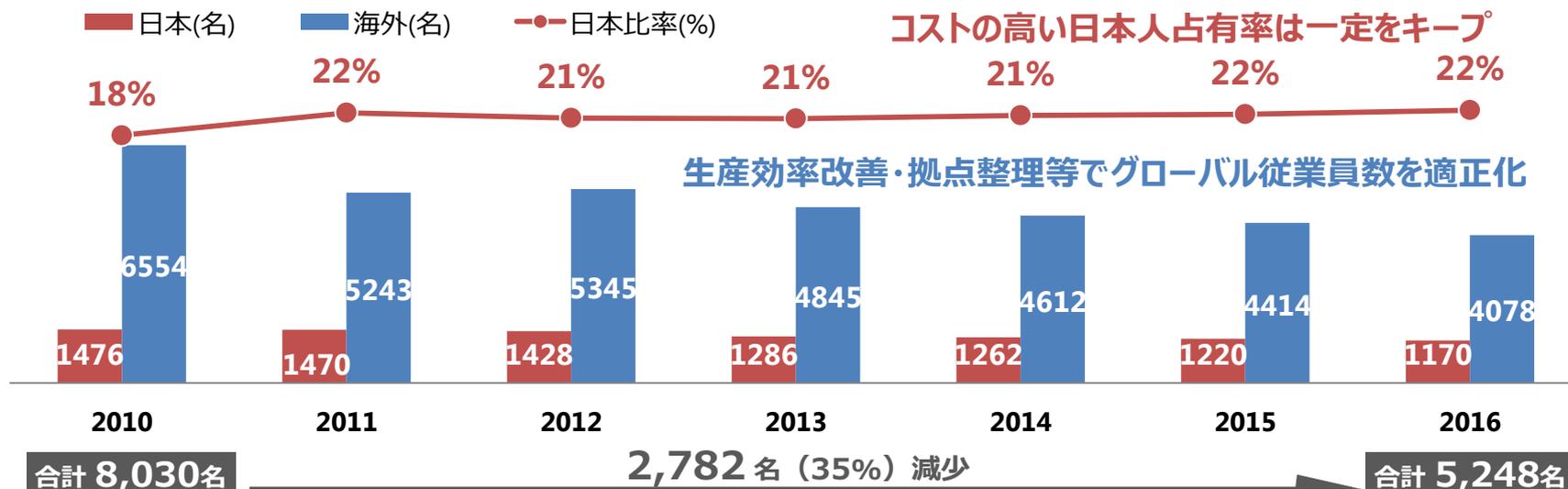
収益改善の背景②：粗利率向上・コスト適正化

■ 売上高(億円)
 ■ 粗利(億円)
 ■ 販管費(億円)
 ● 粗利率
 ● 販管費率

粗利・販管費



従業員数



営業利益の増減分析【15実績 vs 16実績】

変動費要因

きめ細やかな顧客対応や原価管理の徹底、高付加価値品の拡大で収益拡大

固定費要因

2015年度に実施した欧州およびLED関連の構造改革効果と、工場自動化による工場労務費減少などで収益を押し上げる

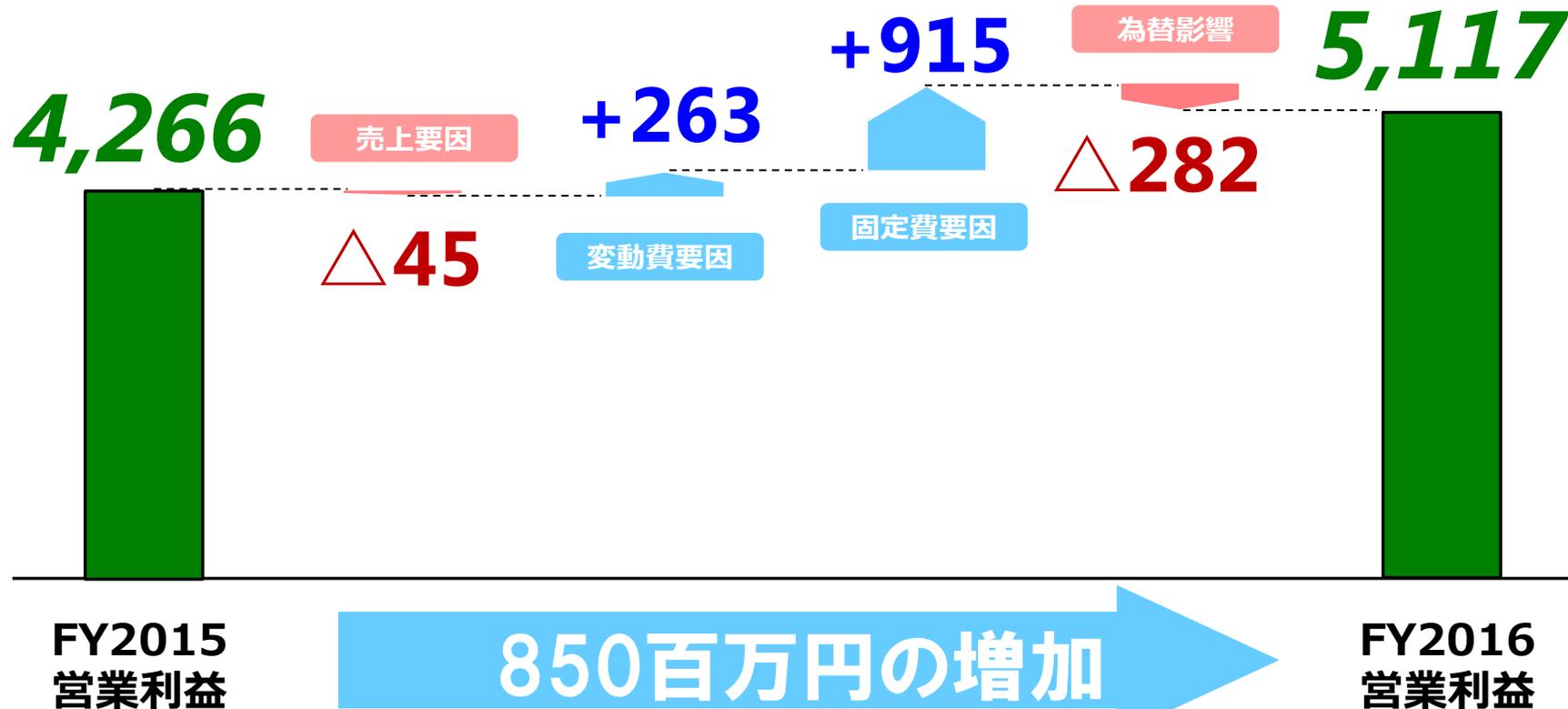
[百万円]

対米ドル為替感応度

営業利益：1円の円高で約25百万円減益／年

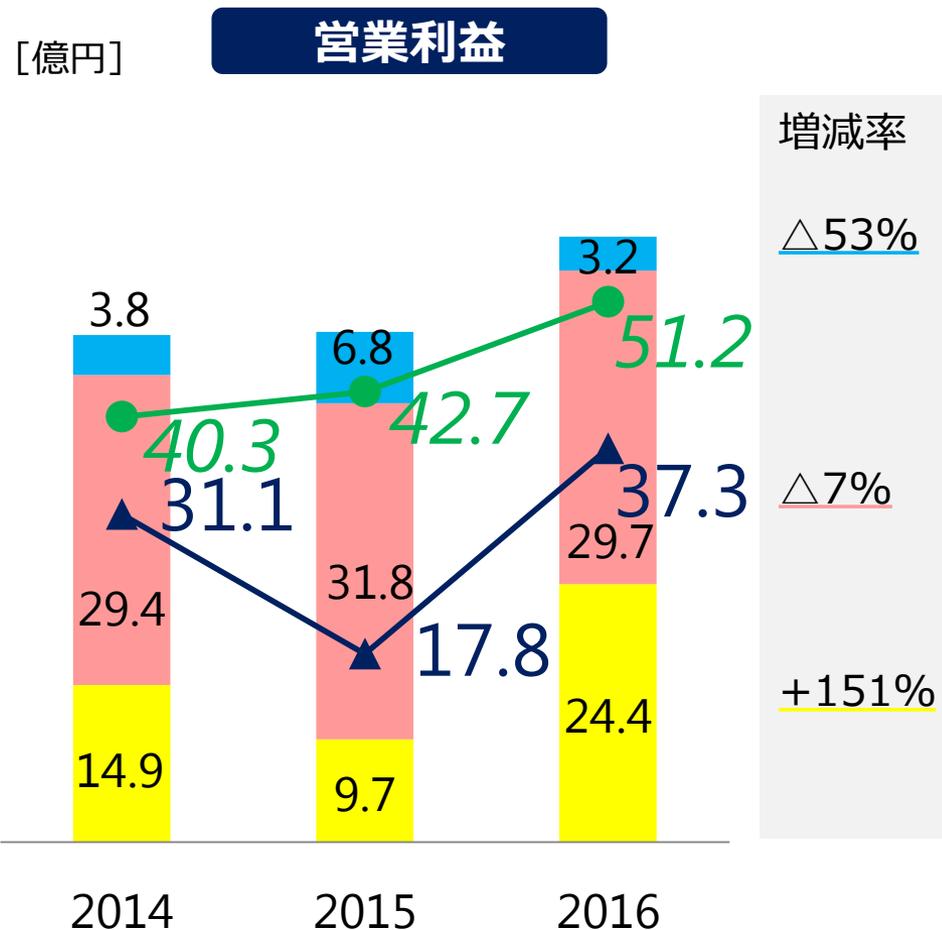
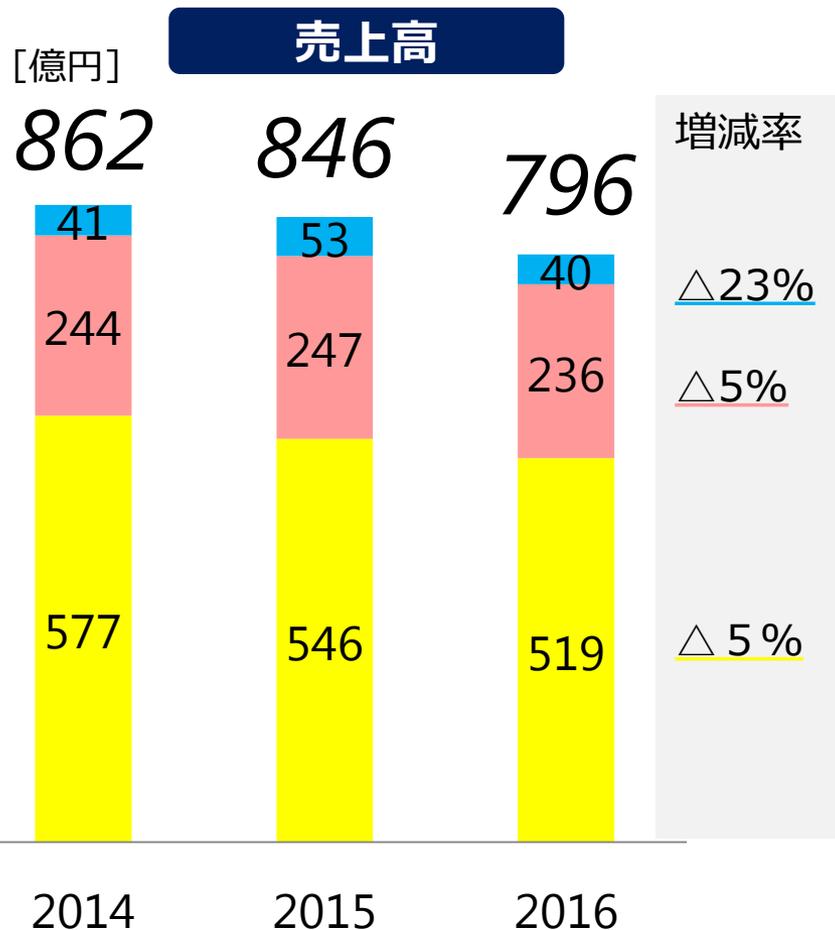
売上高：1円の円高で約400百万円減収／年

119.15円(15年度)⇒107.98円(16年度)



事業部門別の売上高・損益推移

- 電子部品：収益性改善が進展。LEDモジュールの特需もあり、大幅増益
- 電子化学実装：ターゲット市場への開発・拡販を進めるも、秋口までの円高が影響し減収減益
- 情報機器：放送機器のラインナップを揃え拡販を進めるが、セキュリティ機器の特需一巡で減収

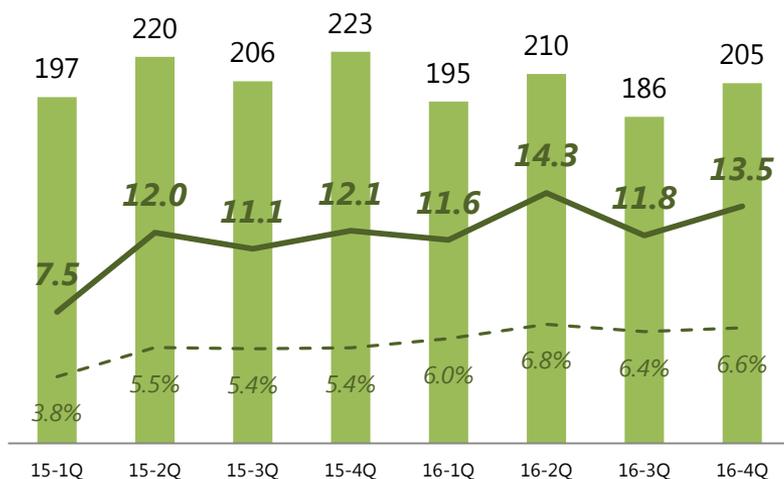


■ 電子部品関連事業 ■ 電子化学実装関連事業 ■ 情報機器関連事業 ● 営業利益 ▲ 純利益

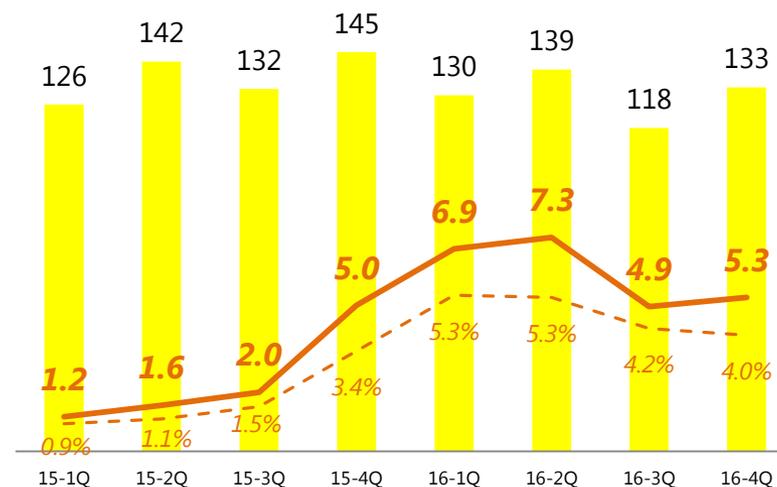
事業部門別の売上高・損益 (四半期推移)

■ 売上高(億円) — 営業利益(億円) - - - 営業利益率(%)

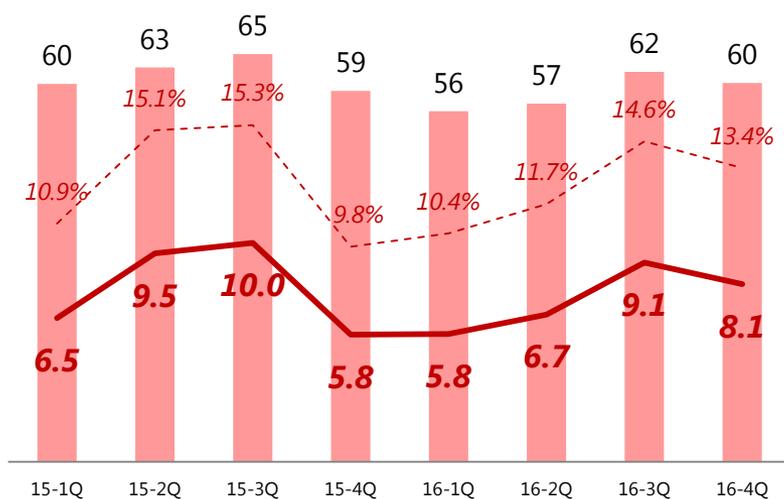
グループ連結



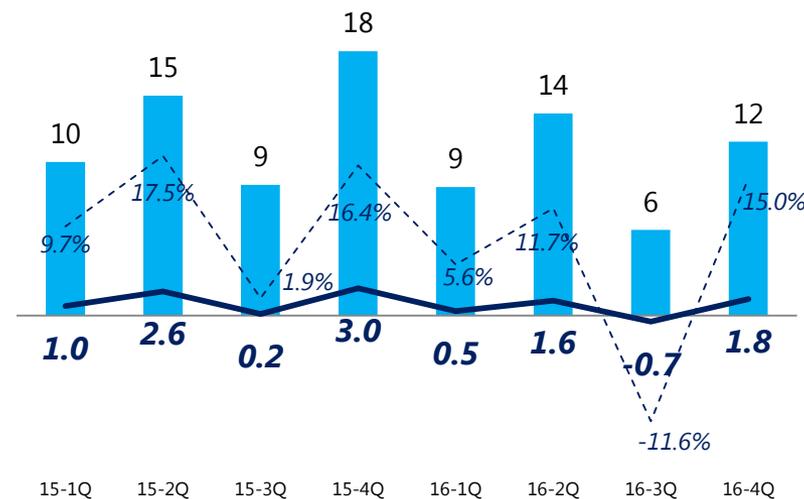
電子部品関連



電子化学実装関連

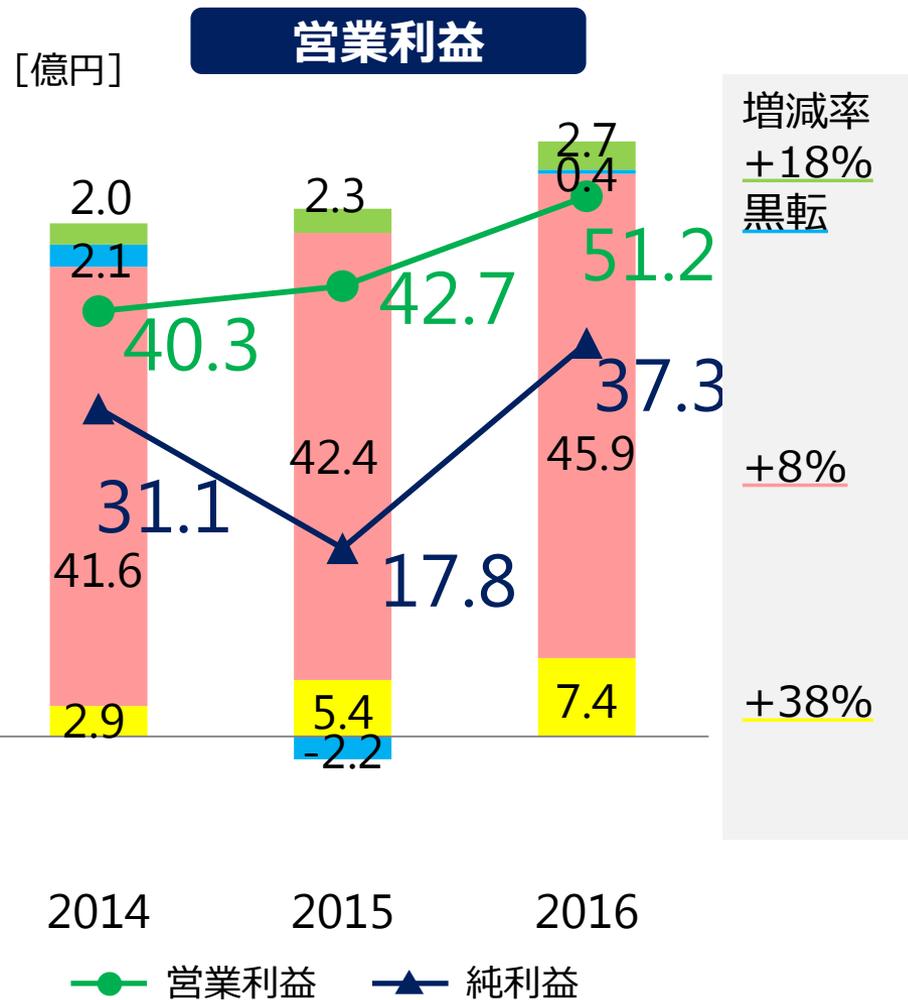
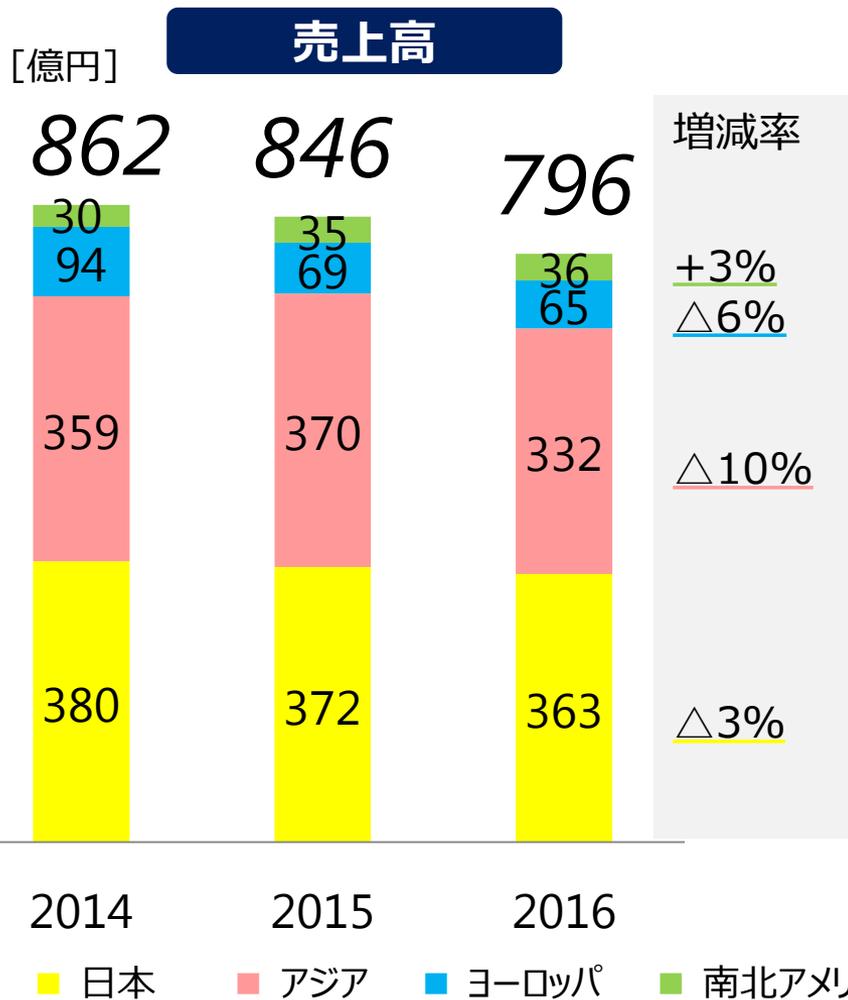


情報機器関連



地域別の売上高・損益推移

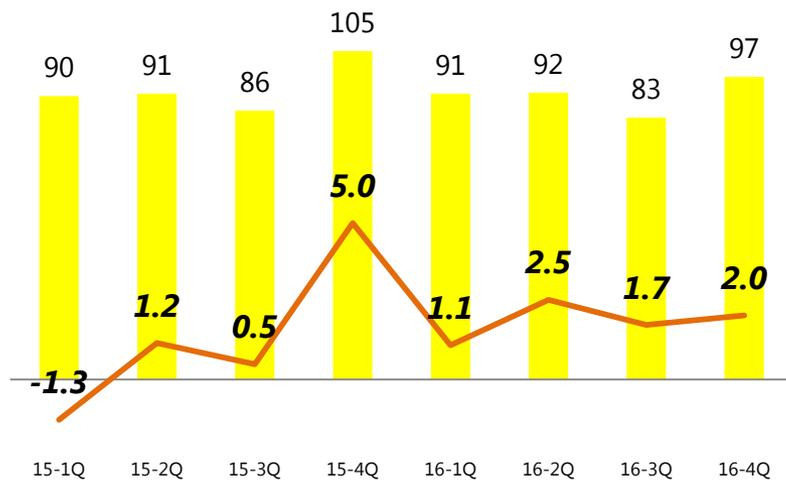
- 日本：自動販売機用LEDモジュールの特需もあり増益
- アジア：円高もあり減収するも、中国エリアをはじめとした工場の収益性が改善し増益
- 欧米：構造改革効果で、ヨーロッパはわずかなるも黒字化



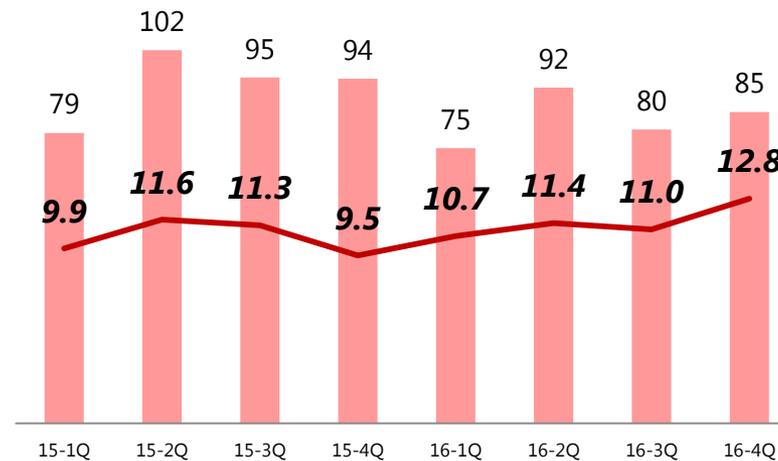
地域別の売上高・損益（四半期推移）

■ 売上高(億円) — 営業利益(億円)

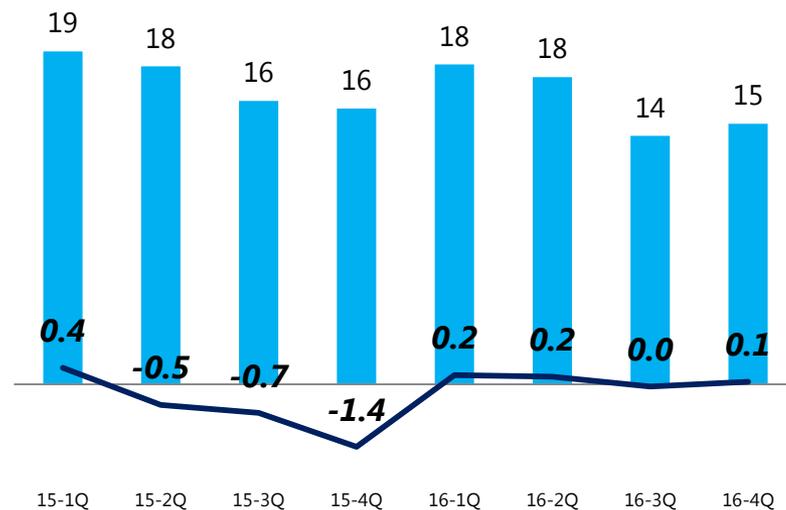
日本



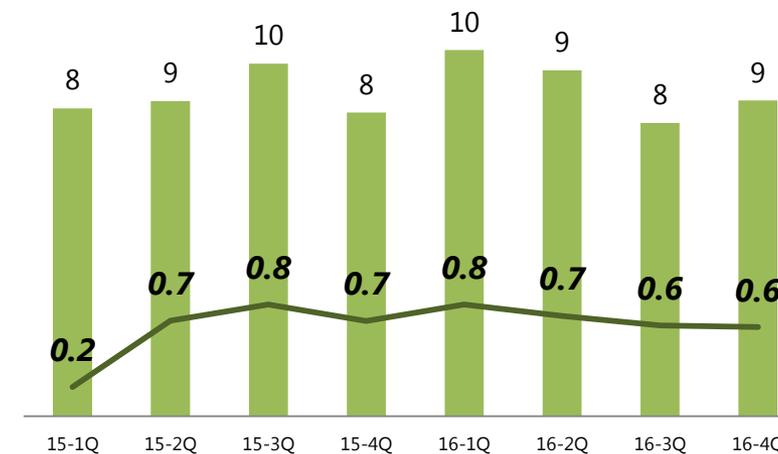
アジア



ヨーロッパ



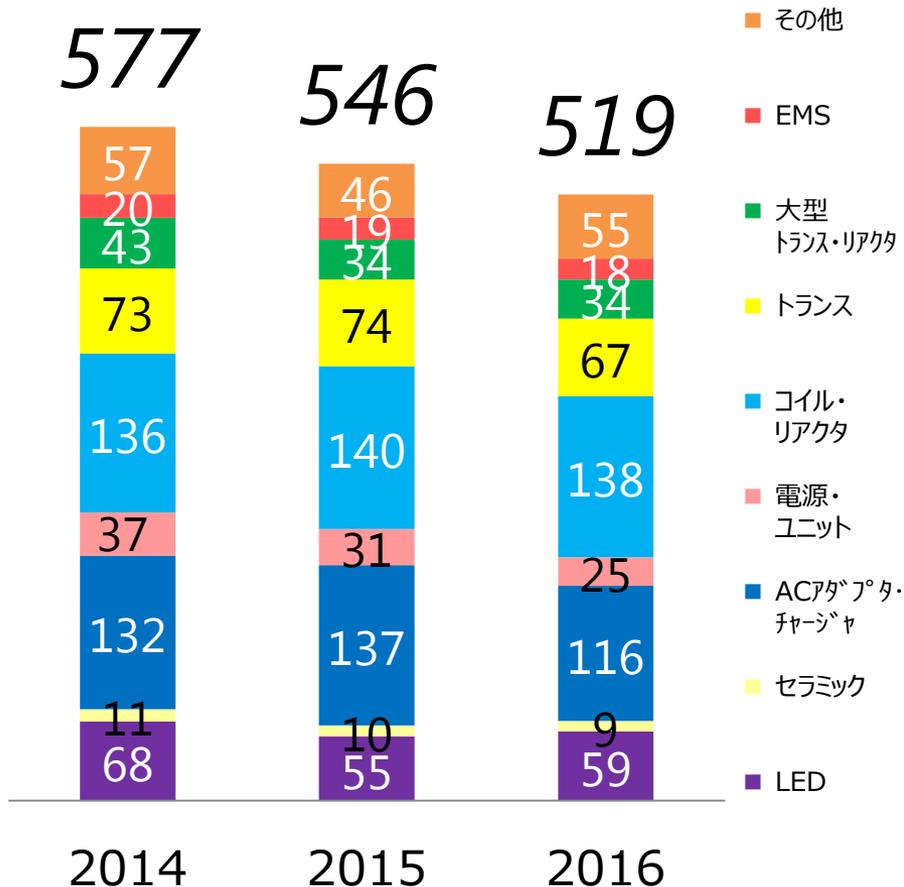
アメリカ



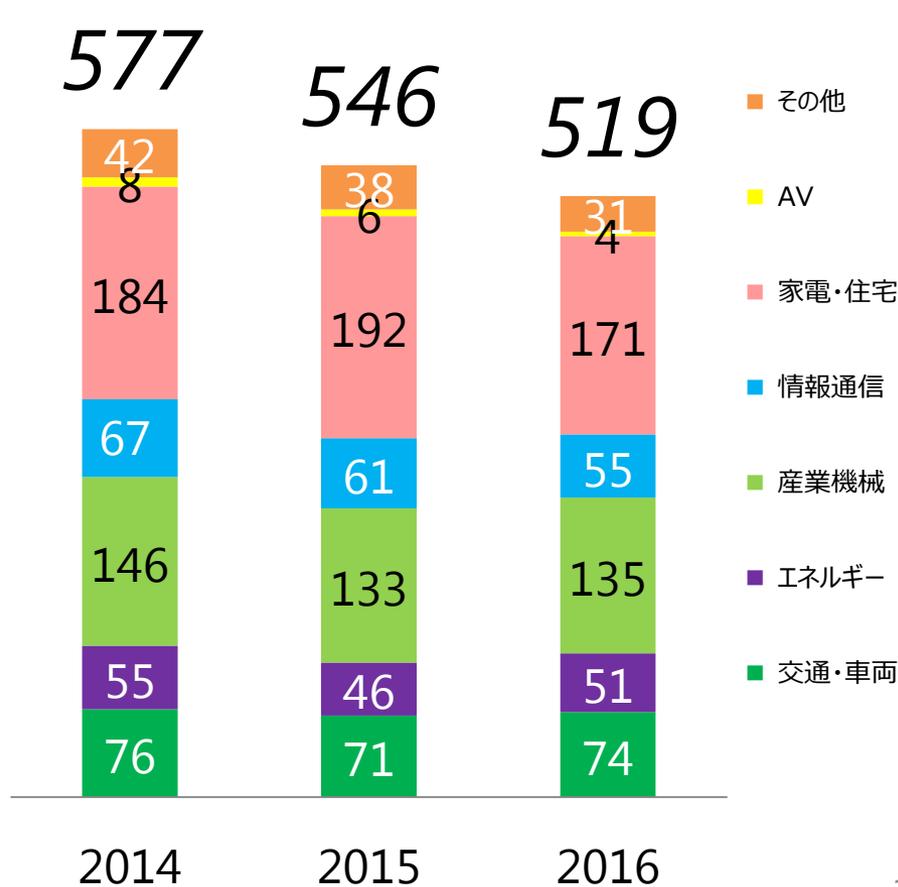
電子部品関連事業の売上高推移

- 家電・住宅関連はエアコン用リアクタがグローバルに堅調に推移
- LED関連は、自動販売機向けモジュールの売上が拡大
- 産業機械関連は、新興国の自動化ニーズを背景に堅調

[億円] **製品別 売上高**

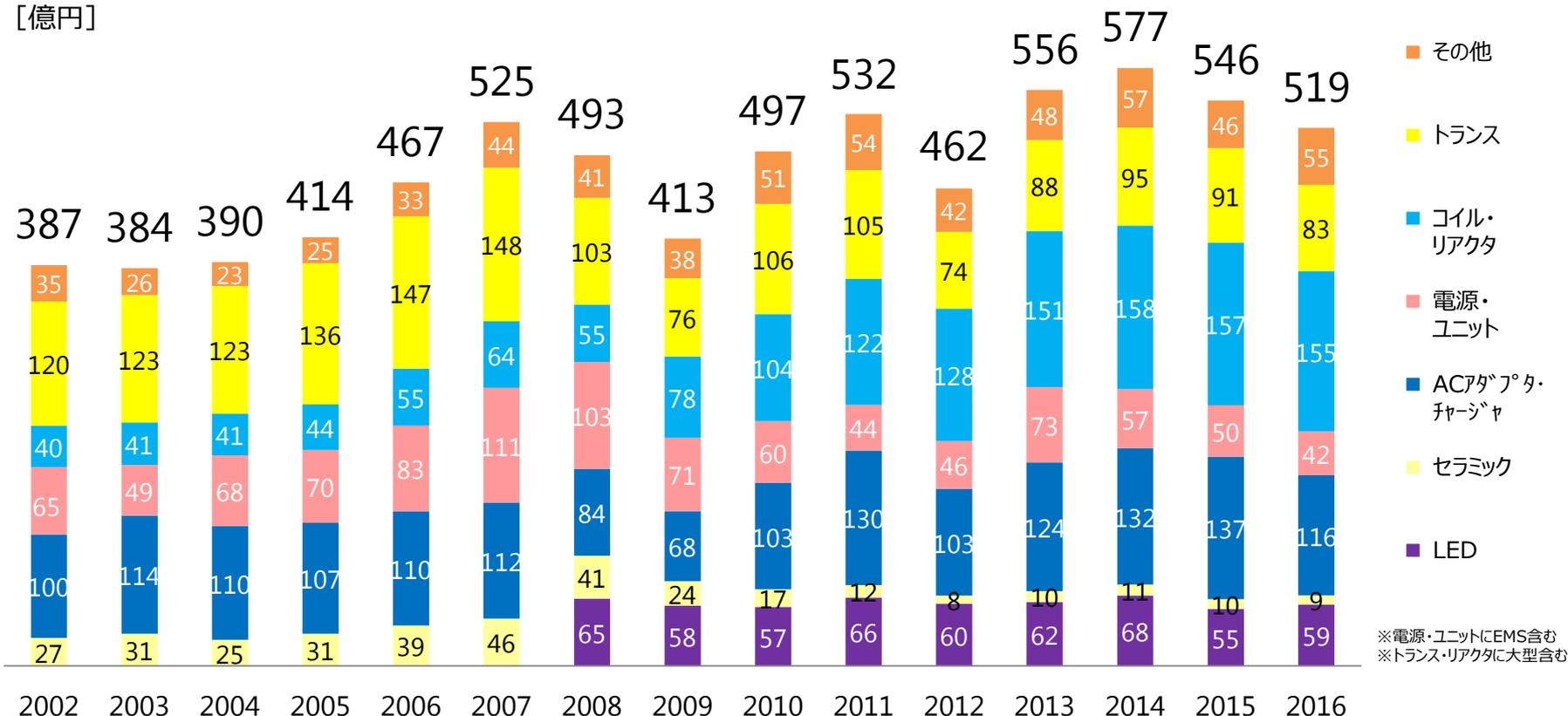


[億円] **市場別 売上高**



【参考】電子部品関連事業の長期売上高推移(製品別)

[億円]



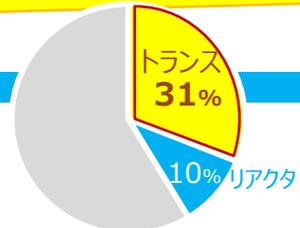
※電源・ユニットにEMS含む
※トランス・リアクタに大型含む

2008~ 光波買収、LED事業参入

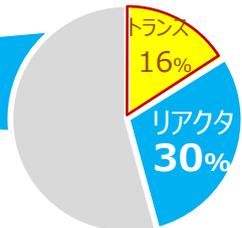
2010~ 大型参入 (ロマーシユ買収)

トランス 民生用から産機用へシフト

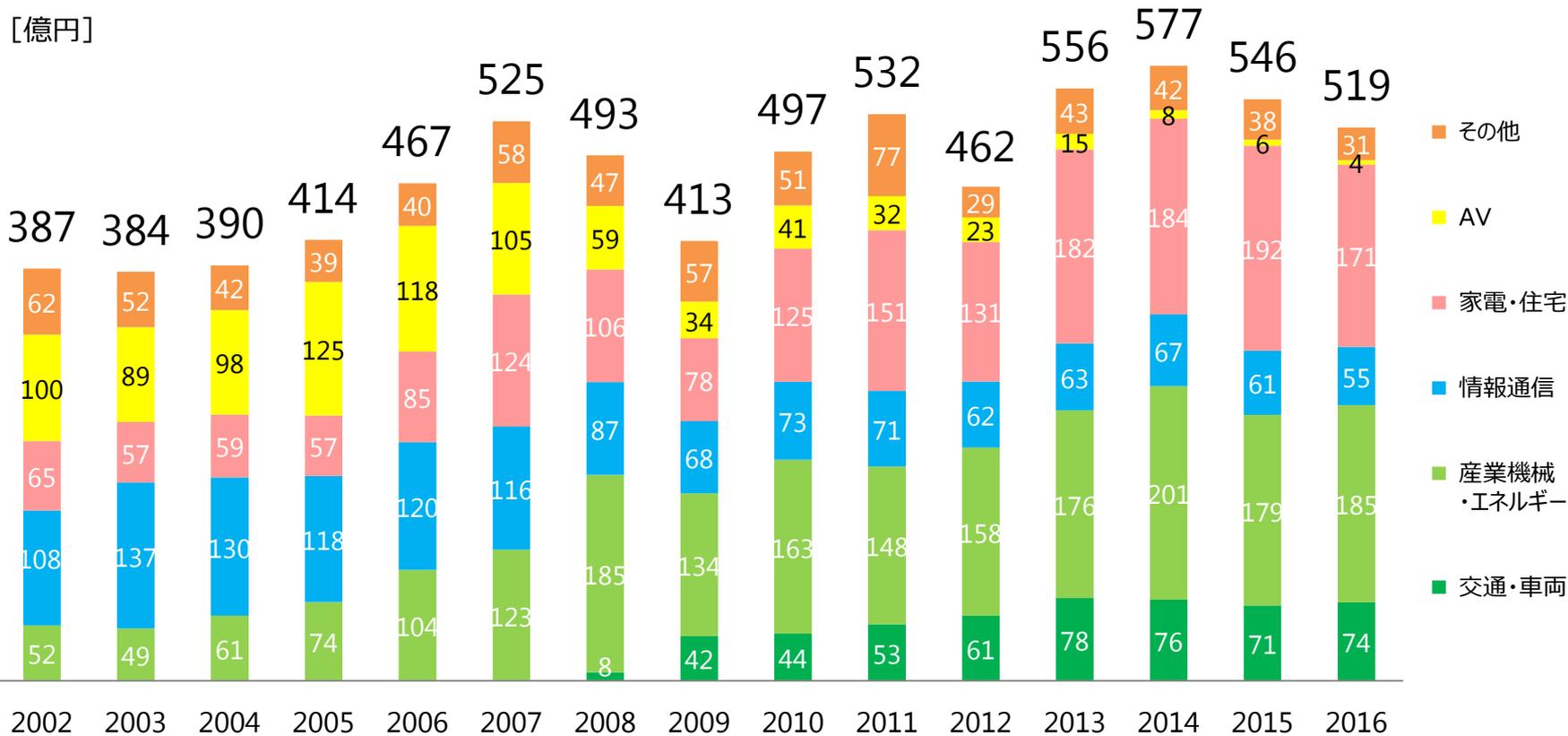
リアクタ 2009~ エコカー参入 2010~ 大型参入 エアコン拡大 送配電



トランス占有率の減少 (31%→16%)
リアクタ占有率の増加 (10%→30%)



【参考】電子部品関連事業の長期売上高推移(市場別)



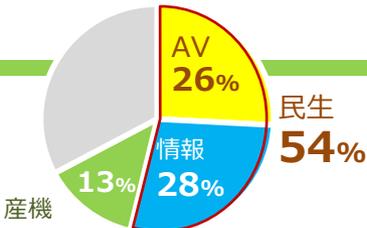
民生

AV
情報

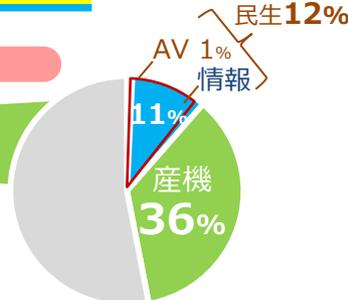


家電 エアコン・電動工具拡大

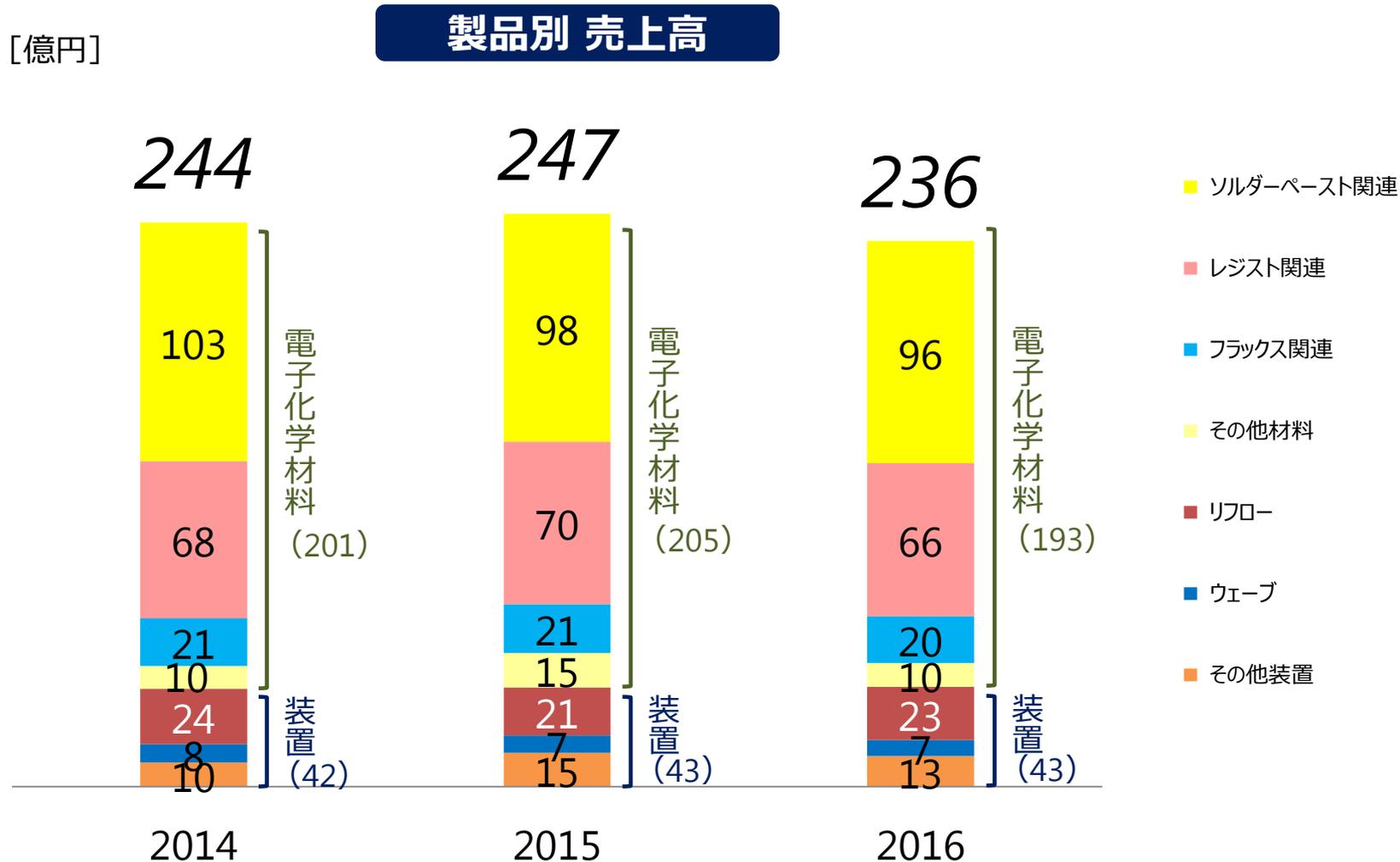
産機



民生(AV・情報) 占有率の減少 (54%→12%)
産機・エネルギー占有率の増加 (13%→36%)



- 電子化学事業は、夏場以降スマートフォン向けのフレキシブル基板用ソルダーレジストが伸長
- 実装装置事業は、自動車関連や電子部品メーカー向けを中心にリフロー装置を拡販



貸借対照表（要約）

- 総資産は4.3億円減少（効率改善で棚卸資産減少）
- 有利子負債は33.6億円減少、純資産は21.3億円増加

	[百万円]		
	16/3	17/3	対期末増減
流動資産	51,647	52,659	+1,012
（現預金）	15,133	19,463	+4,330
（売上債権）	21,518	19,896	△1,621
（棚卸資産）	12,532	10,689	△1,842
（その他流動資産）	2,463	2,610	+146
固定資産	25,141	23,693	△1,447
（有形固定資産）	19,003	16,955	△2,048 ※1
（無形固定資産）	1,195	858	△336
（投資、その他）	4,941	5,879	+937
資産合計	76,788	76,353	△435
流動負債	26,017	23,186	△2,830
（仕入債務）	10,844	11,098	+254
固定負債	14,322	14,577	+255
〔有利子負債〕	20,611	17,247	△3,363
負債計	40,339	37,764	△2,575
純資産合計	36,448	38,588	+2,139 ※2
負債・純資産合計	76,788	76,353	△435
自己資本比率	47.2%	50.3%	+3.1%

■ 主な増減

※1 有形固定資産 △2,048

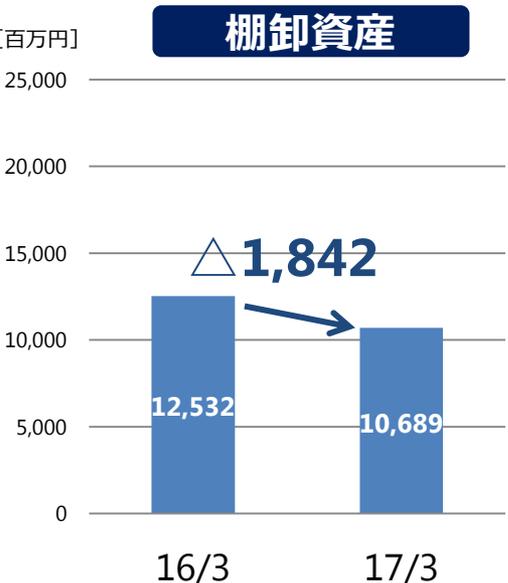
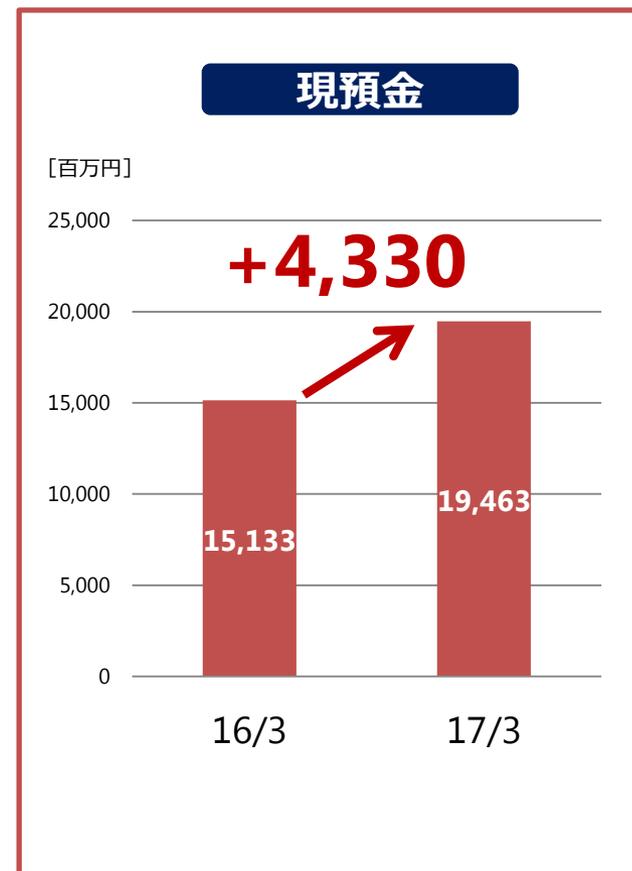
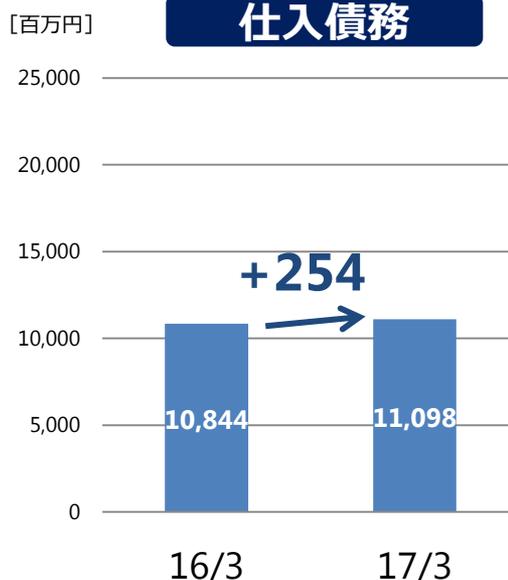
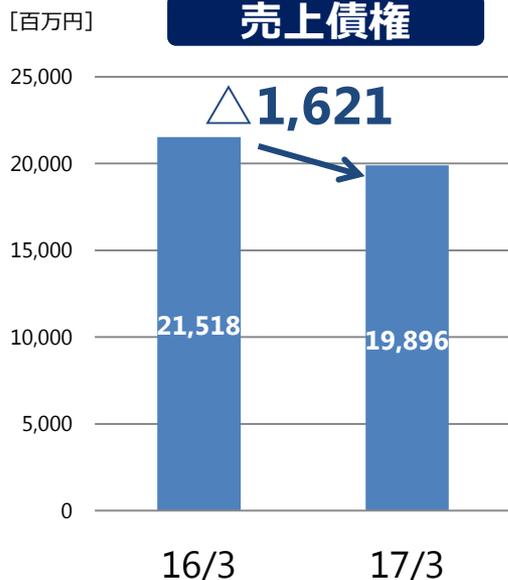
土地及び建物の譲渡
建て替えに伴う減損等

※2 純資産 +2,139

利益剰余金 +3,097
（当期純利益 +3,727、配当△656、
新規連結+28、自己株処分△3）

その他有価証券評価差額金+165
為替換算調整勘定 △1,485
退職給付に係る調整累計額+356

貸借対照表（主な増減）



キャッシュフロー（要約）

- 営業CF：利益の拡大により増加
- 投資CF：固定資産売却による収入（海外子会社の土地建物売却収入）あり
- 財務CF：借入金の返済

	16/3	17/3	[百万円] 前年同期増減額
営業活動によるキャッシュフロー	8,345	8,140	△204
投資活動によるキャッシュフロー	△2,199	△777	+1,421
フリーキャッシュフロー	6,145	7,362	+1,216
財務活動によるキャッシュフロー	△2,674	△3,966	△1,292
キャッシュの増減	3,327	4,212	+884
キャッシュの残高	15,017	19,270	+4,252



2. 2018年3月期 通期業績予想

- 引き続き収益性の向上を第一の目標として、高付加価値製品の拡大を図るとともに、将来の成長に向けた開発・設備投資を実施
- 営業利益は2期連続の過去最高更新を目指す

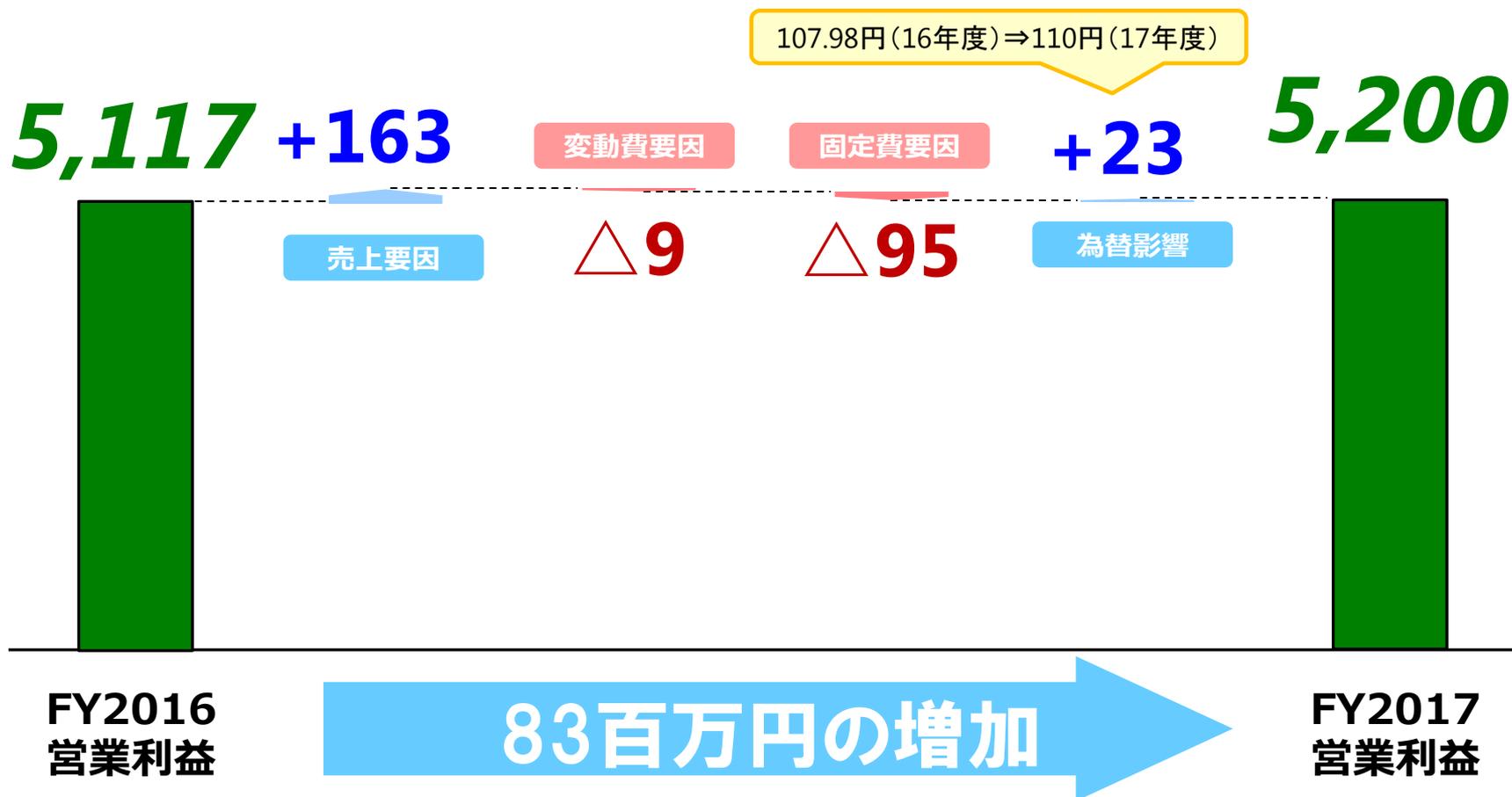
[百万円]

	FY2016 通期 実績	FY2017 通期 予想	対前年 増減額	前年比
売上高	79,607	83,000	3,393	+4%
営業利益	5,117	5,200	83	+2%
経常利益	5,091	5,100	9	0%
親会社株主帰属 当期純利益	3,727	3,200	△527	△14%
ROE	10.0%	9%以上	—	—
対米ドル為替レート	期中平均 107.98円	前提 110円	2.02円	+2%

営業利益の増減分析【16実績 vs 17予想】

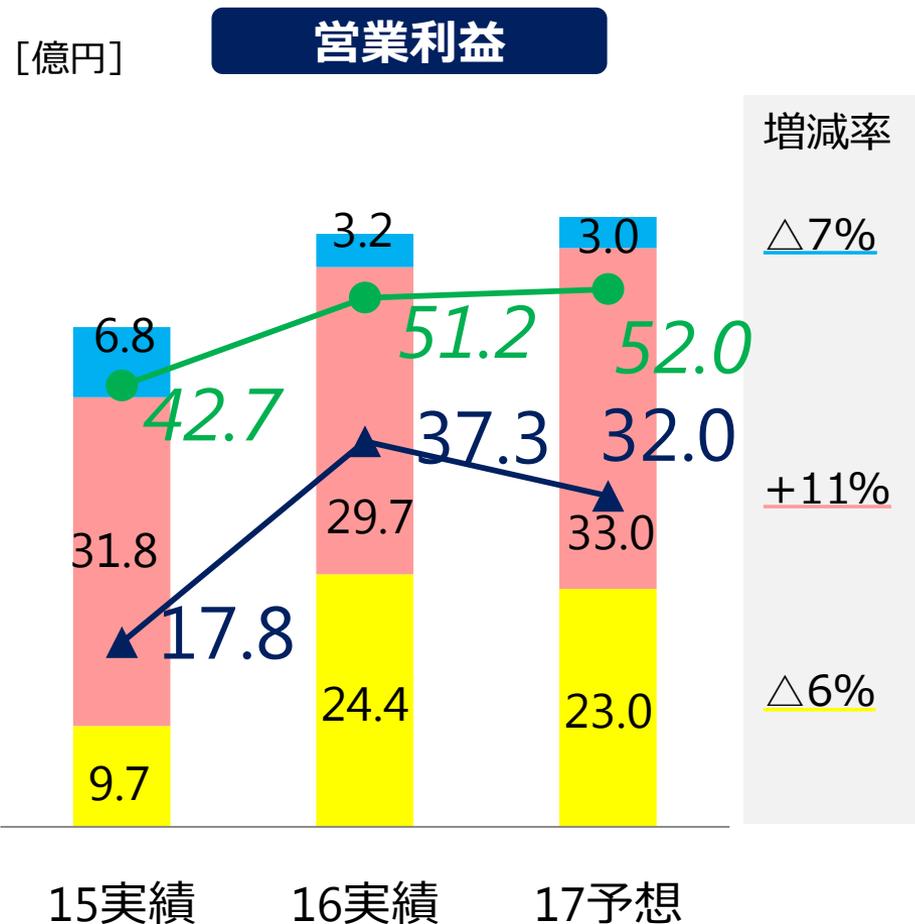
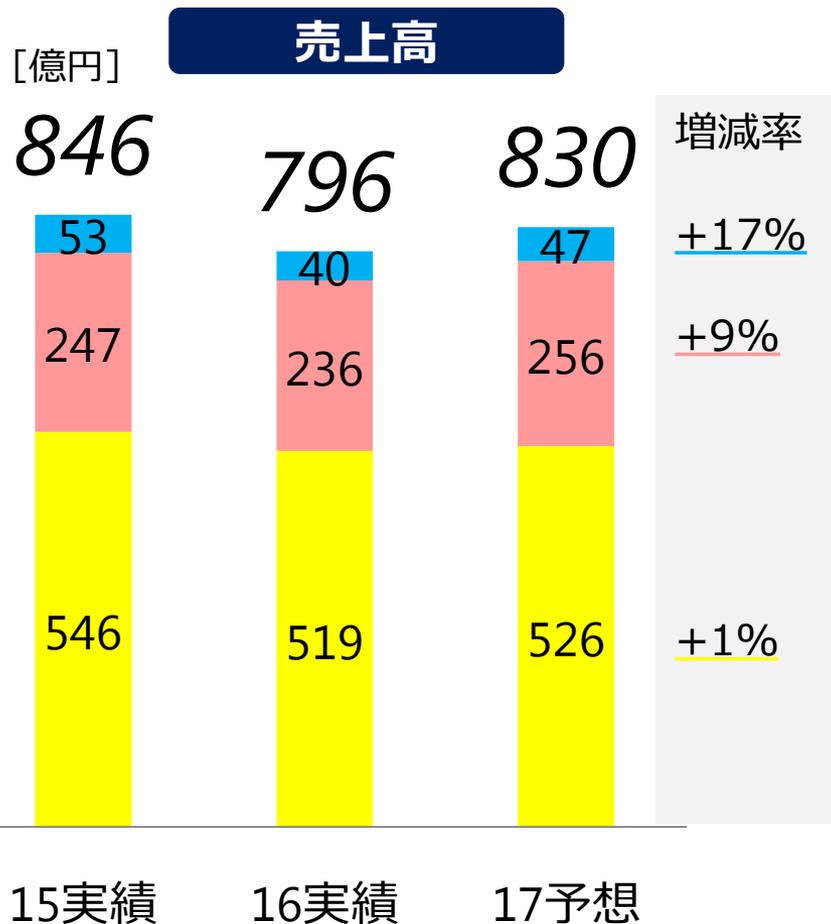
- 原価管理の徹底、生産効率改善、グローバル最適配置の推進などによりコストを抑えつつ、設備投資・研究開発を強化し、将来の更なる飛躍に向けた準備を進める。

[百万円]



事業部門別の売上高・損益見通し（年次）

- 電子部品：将来の成長に向けた製品開発・生産体制強化を推進
- 電子化学実装：為替や原材料などの変動リスク対策を進めて収益安定化を図る
- 情報機器：放送機器の新規および更新需要を取り込み売上を拡大

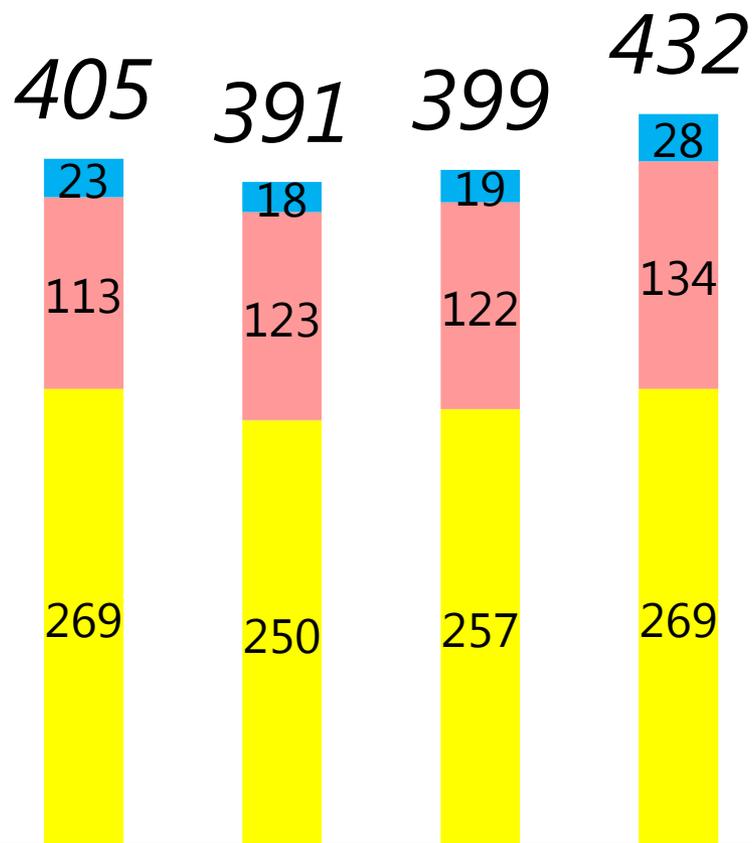


■ 電子部品関連事業 ■ 電子化学実装関連事業 ■ 情報機器関連事業 ● 営業利益 ▲ 純利益

事業部門別の売上高・損益見通し（半期）

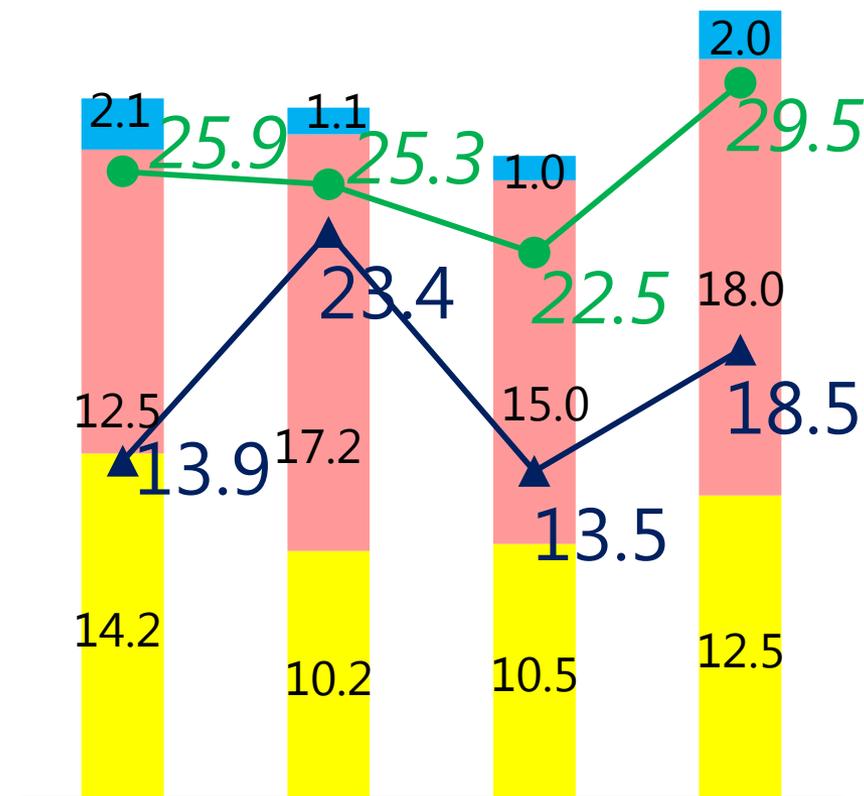
売上高

[億円]



営業利益

[億円]



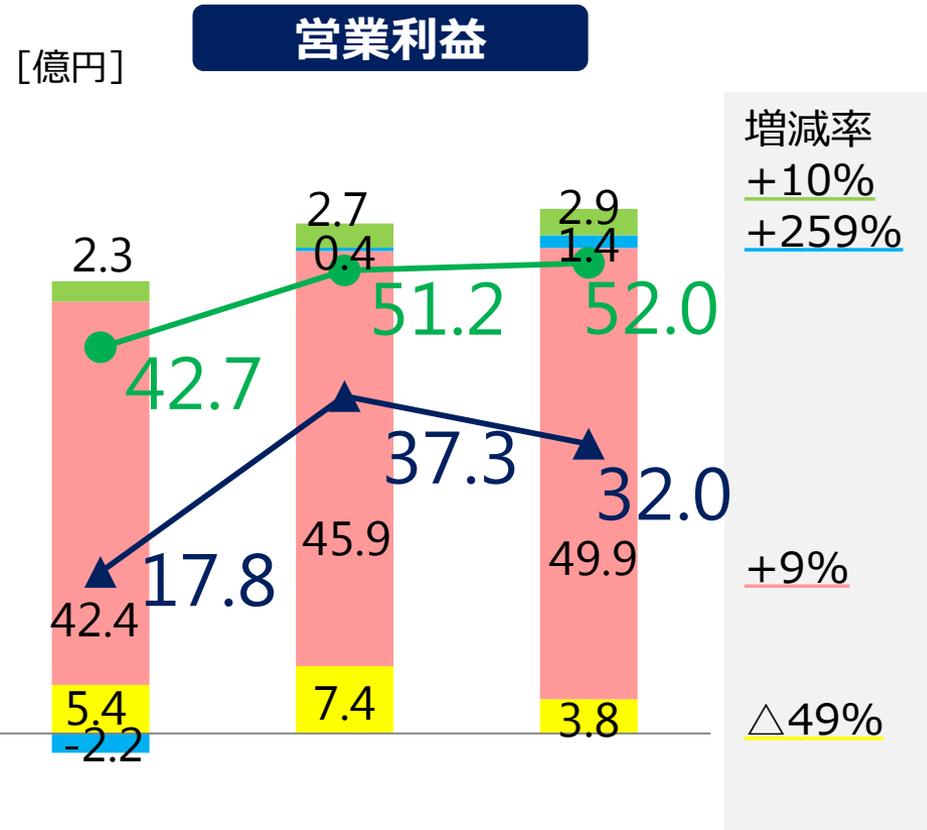
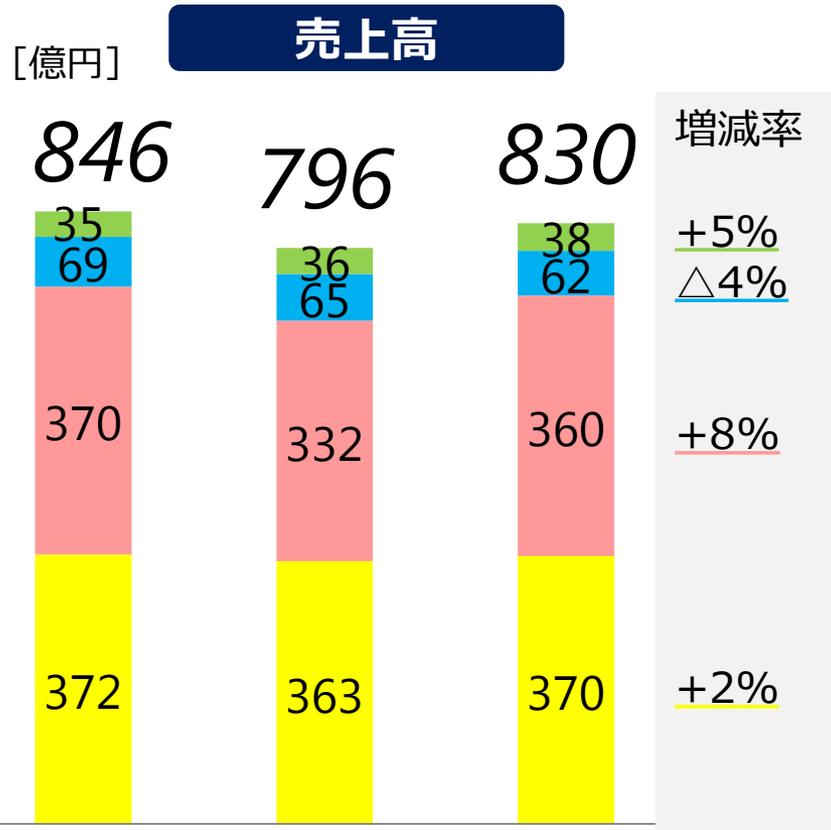
16上 実績 16下 実績 17上 予想 17下 予想

16上 実績 16下 実績 17上 予想 17下 予想

■ 電子部品関連事業 ■ 電子化学実装関連事業 ■ 情報機器関連事業 ● 営業利益 ▲ 純利益

地域別の売上高・損益見通し

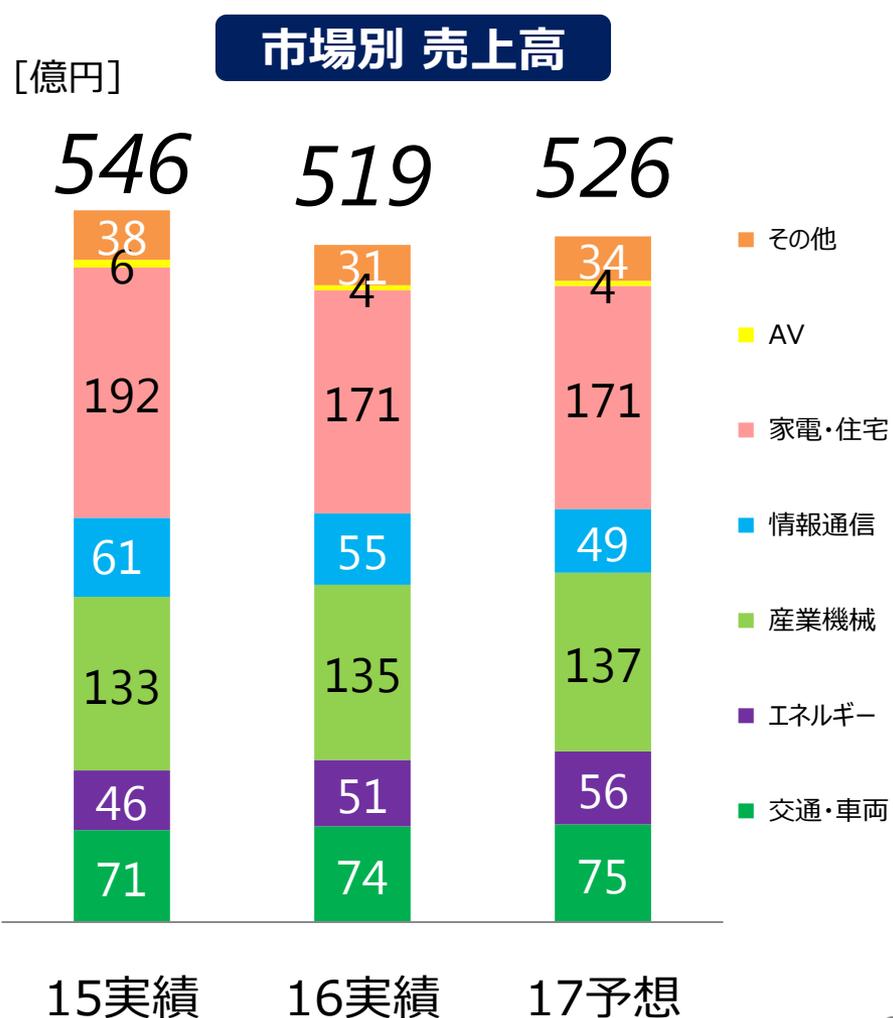
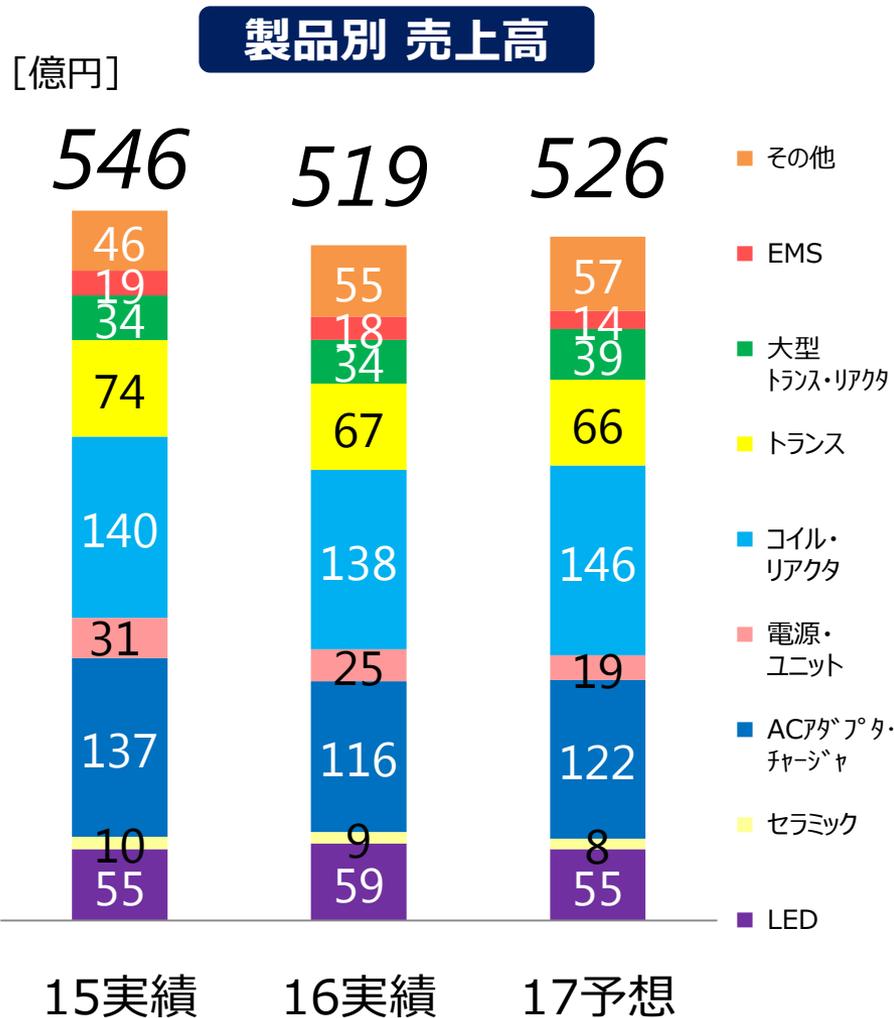
- 日本：2016年度に利益を牽引した自動販売機用モジュールの需要が一服
- アジア：「地開（開発）地承（承認）」の推進で、売上・利益を牽引
- 欧米：ターゲットを見極めて開発・販売を行い、黒字継続を目指す



15実績 16実績 17予想 15実績 16実績 17予想

■ 日本 ■ アジア ■ ヨーロッパ ■ 南北アメリカ ● 営業利益 ▲ 純利益

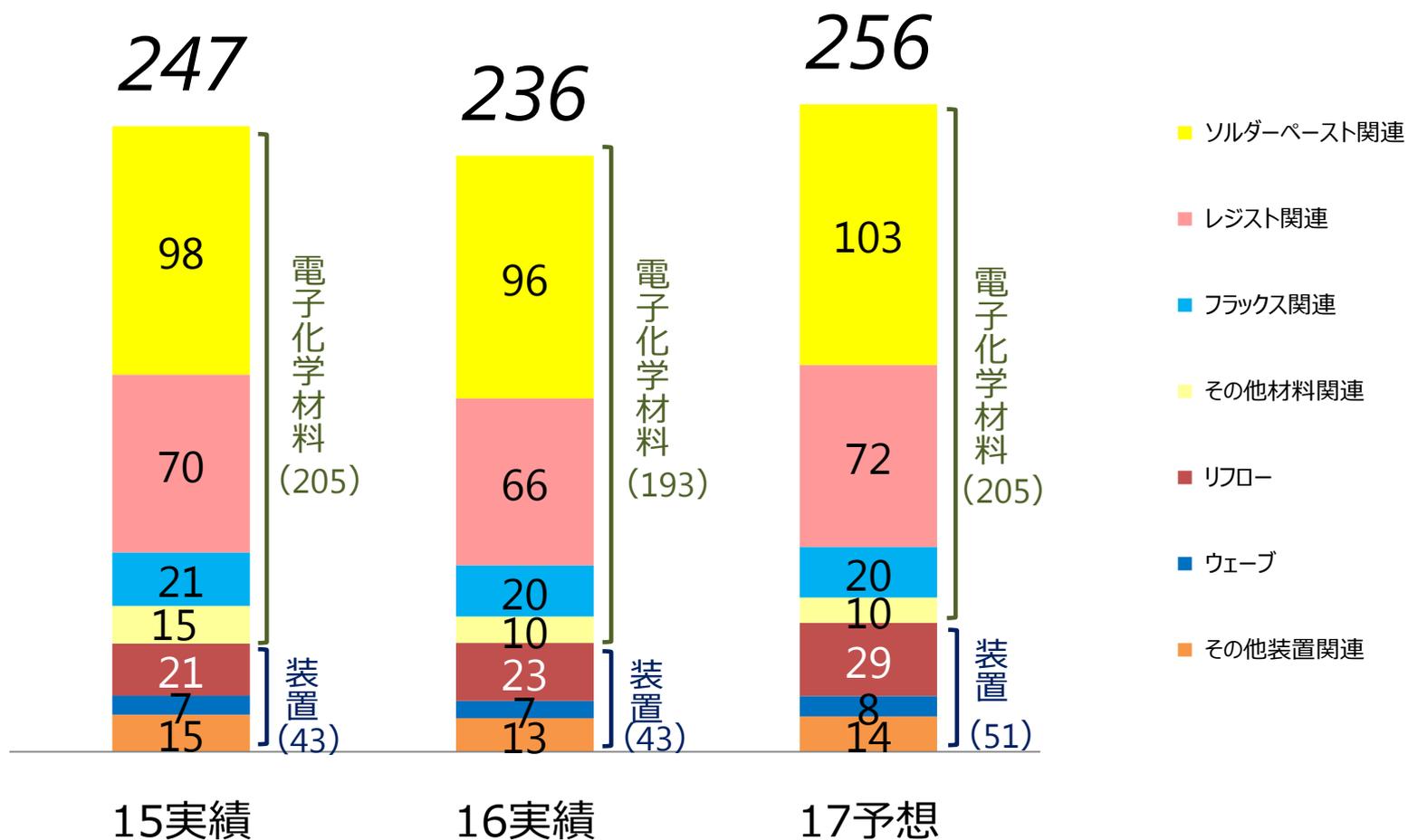
- 家電・住宅市場向けエアコン・電動工具関連はグローバルに高水準が継続
- 自動販売機用LEDモジュールの特需は一巡するも、工作機械関連の需要の高まりを背景に産業機械向け電子部品は堅調な推移を見込む

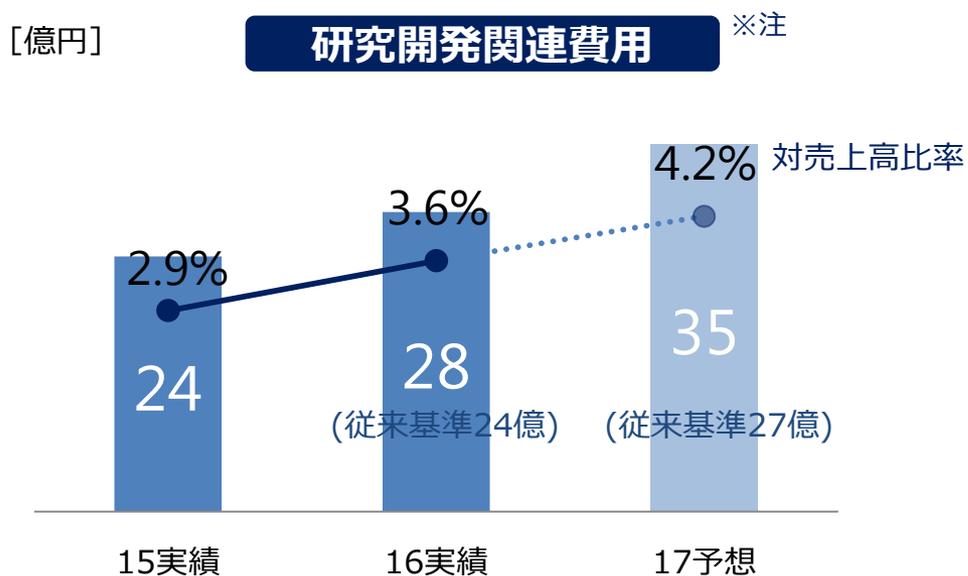
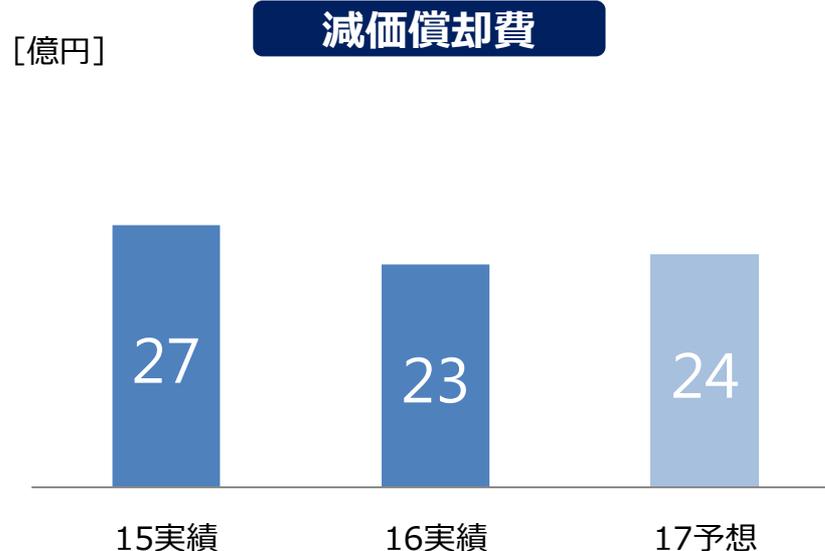
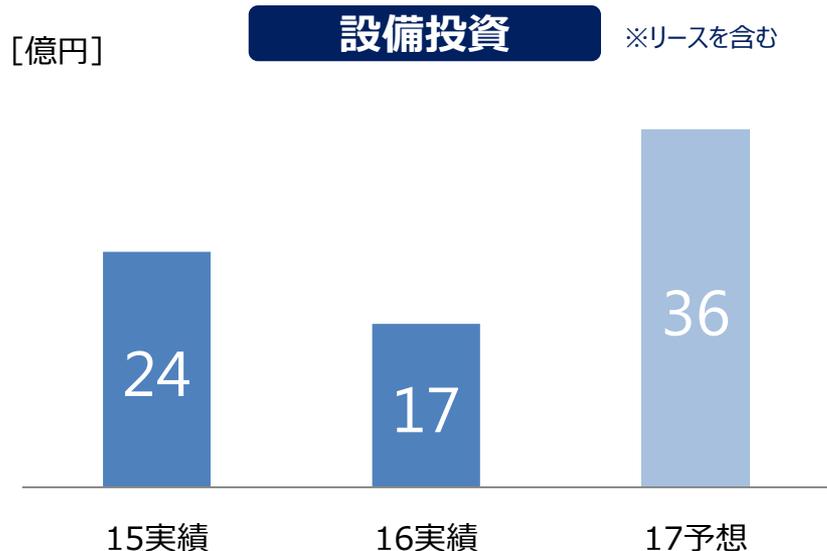


- IoT（スマートフォン）・車載市場をターゲットに開発・販売を推進
- 電子化学事業は、生産・調達・販売のグローバル最適体制を構築し売上・利益を拡大
- 実装装置事業は、電子部品メーカーや自動車関連向けにリフロー装置が増加

[億円]

製品別 売上高





主な設備投資

- 電子部品：車載関連生産設備増強
- 電子化学：生産設備増強

主な開発投資

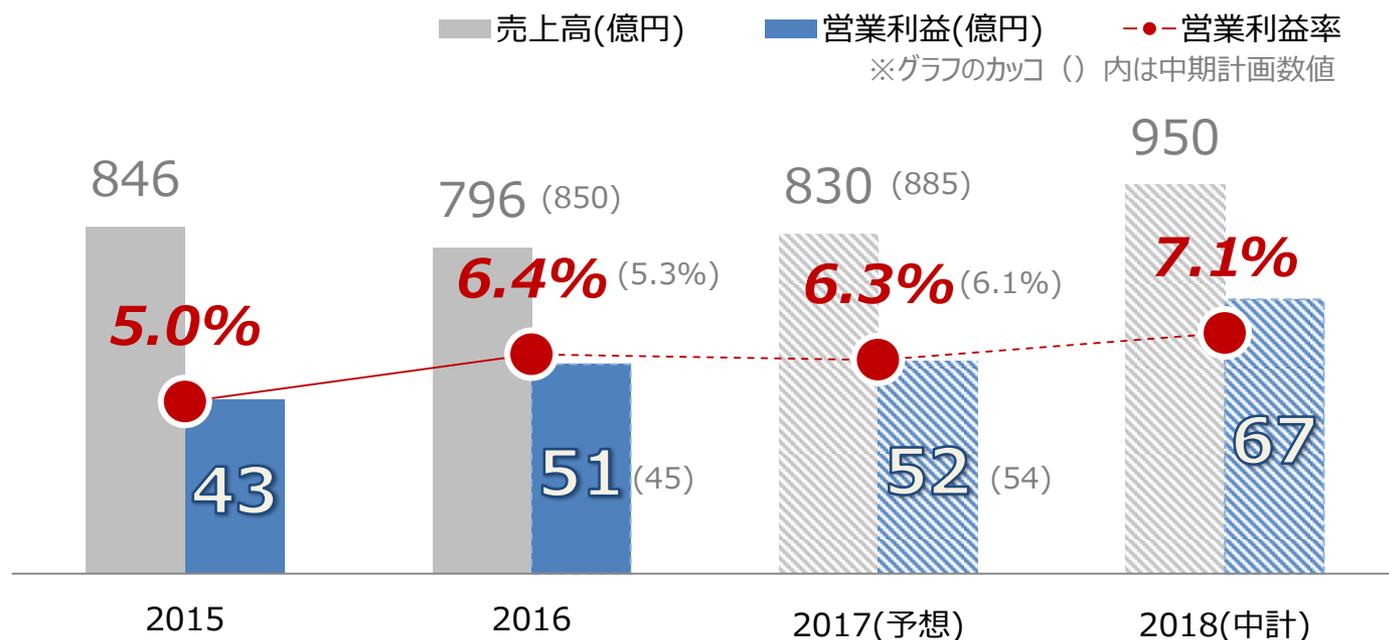
- 電子化学材料 新素材関連
- 車載用電子部品関連
- 次世代ワイヤレス技術
- センシング技術
- セミコン・結晶開発（酸化ガリウム）関連

※注 「研究開発関連費用」は、研究開発テーマに関わる経費・労務費・設備投資などを、当社の基準で集計している値です。2016年度3Qより基準を変更したため、以降の「研究開発関連費用」の値が増加しております。

3. トピックス

長期ビジョンとして創業100周年（2024年）を見据えながら、
2018年度をターゲットとする第11次中期経営計画

“Bilrite Tamura GROWING” を進行中



目標とする経営指標

	2015年(実績)	2016年(実績)	2017年(予想)	2018年(中計) 中期目標
営業利益率	5.0%	6.4%	6.3%	7%以上
ROE	4.8%	10.0%	9%以上	9%以上
非日系比率	28%	29%	30%	30%以上

第11次中期成長戦略

中長期ビジョン

電子部品 関連事業

- 環境車向け昇圧リアクタ
- モータードライブ市場向けリアクタ
- ハイパワーマグネティックス：送配電向け大型リアクタ

3つの製品群で
グローバルNo.1
を目指す

電子化学実装 関連事業

- 車載市場：大電流・高電圧対応、高信頼性材料
- IoT市場：ファインピッチ化・薄型化対応
- 実装装置のIoT化

電子化学実装の
リーディングカンパニー
を目指す

情報機器 関連事業

- キー局・地方局の放送機器更新
- 位置認識機能を高めた次世代セキュリティーシステム開発
- 現地スタッフによる海外ビジネス強化

ローカルコミュニケーション
グローバルニッチで
No.1を目指す

未来開発

- YAG単結晶蛍光体の早期事業化。
光波との連携による高輝度光源モジュール化。
- 酸化ガリウムパワーデバイスは、カーブアウトベンチャー
で助成金などを活用して開発を加速

オンリーワン製品
として早期事業化

市場の本格化は
2020年以降

加速する
自動車の電装化



HEV・EVの拡大



新興国をはじめとした
世界的自動車需要

＝ タムラの中長期的市場機会拡大

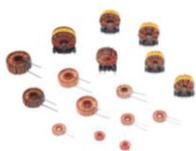
電子部品関連

● 昇圧リアクタ



エコカーの昇圧ユニットに
・ハイブリッド車
・電気自動車
・燃料電池車

● コイル



快適装備の増加に
・カーオーディオ
・カーナビ

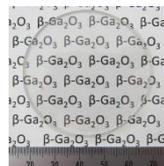
● 電流センサ



様々な制御機構の広がり
にセンサ需要が増加



● 酸化ガリウムパワー半導体



未来に向けたパワー半導体
・GaN・SiCを超える高耐圧・低損失
・革新的省エネ化・軽量化に貢献

未来開発

電子化学実装関連

● ソルダペースト（クリームはんだ）



各種電装品に
・大電流・高耐圧対応

● ソルダレジスト (プリント配線板絶縁材料)



高信頼性
・耐クラック性
・耐熱性・耐湿性

新たな市場ニーズで
電装品増加
・自動運転
・安全装備

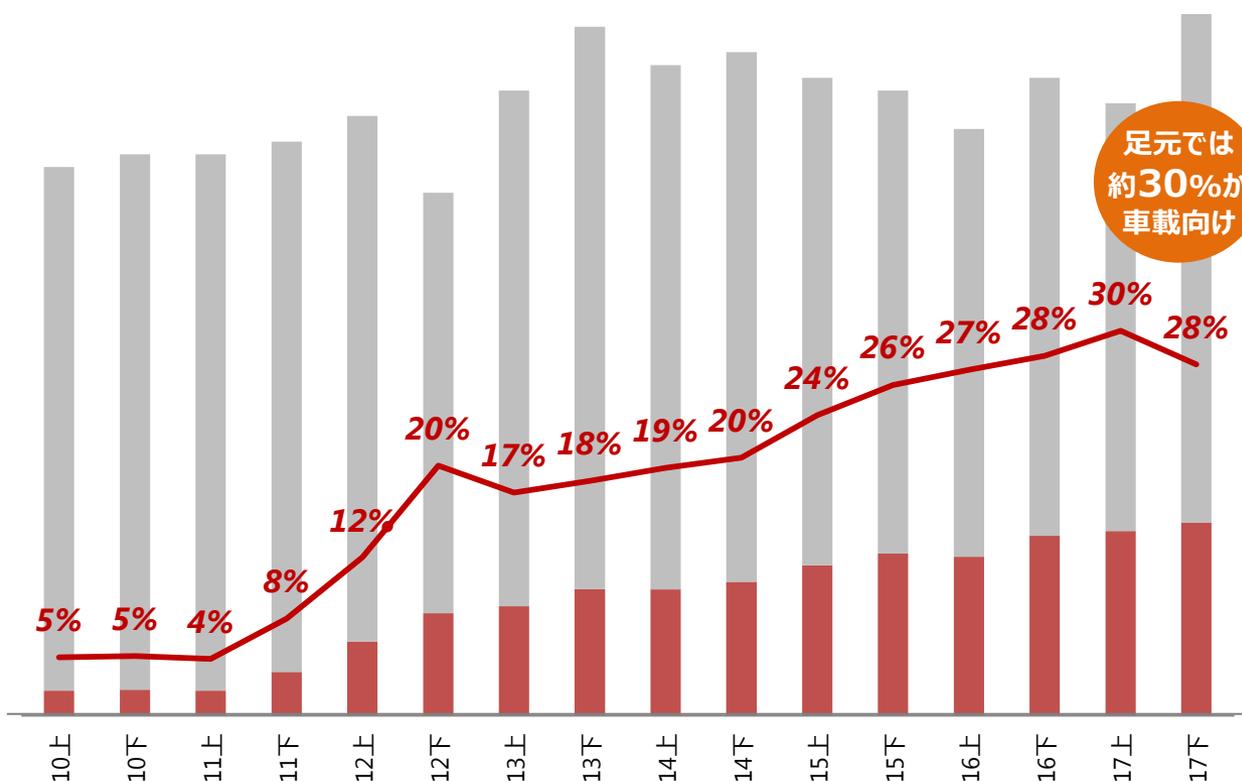
● 実装装置（はんだ付装置）



車載用基板や
モジュールの実装に
需要が増加

ソルダーペーストに占める車載用途占有率

■ 車載用売上高 ■ 車載用以外売上高 — 車載用途占有率



タムラのアクション

将来に向けた
製品開発加速

グローバル生産体制
の強化

非日系顧客拡大

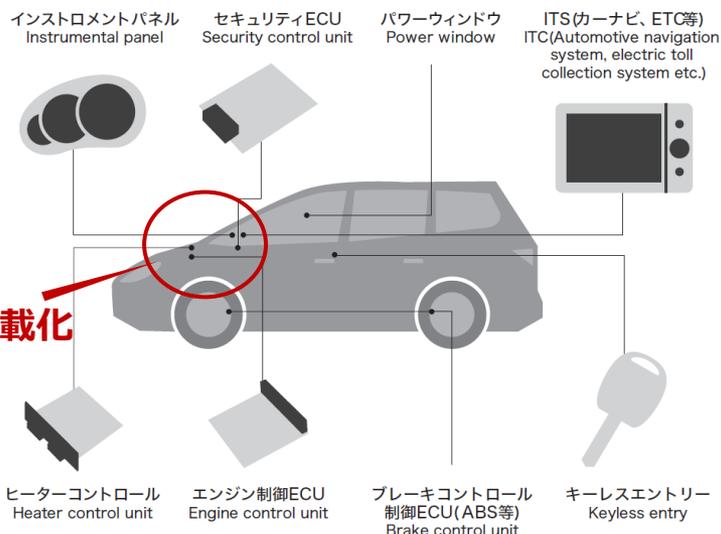
中長期成長ドライバーとして
車載市場拡大

市場 機会

- 電装化 (快適装備) (安全装備) (運転支援) (自動運転)
- 電動化 (ハイブリッド車) (電気自動車) (燃料電池車)
- 技術高度化 (大電流・高耐圧対応) (3D実装) (エンジン直載化)
- タムラのチャンス (車載用基板・モジュールの増加) = 車載用材料・装置のニーズの高まり

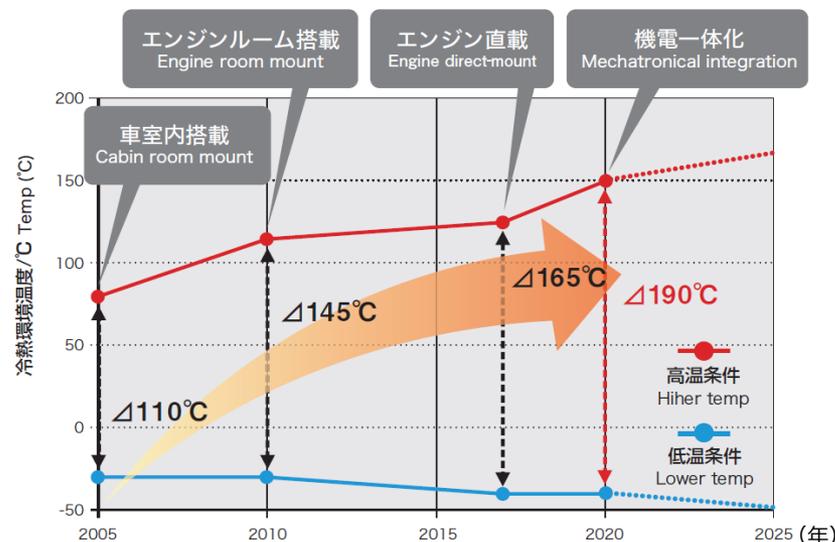
電子制御ユニット(ECU)の増加

エンジン直載／機電一体化の進展



過酷環境下における高信頼性要求の高まり

車載ECUの耐久寿命業界動向



開発品

車載用高耐熱合金溶剤ペースト TLF-286 シリーズ 車載用高信頼性溶剤レジスト DSR-2200 ACRシリーズ

- 車載部品のエンジン直載化に対応可能な高温帯においても信頼性が高い溶剤ペースト「TLF-286 シリーズ」を開発しました。
- 電子化学事業のオリジンである独自のフラックス技術と新規開発した耐久性をもたせた合金を組み合わせることにより、従来のSAC305製品と比較して冷熱サイクル後のクラック率や合金層の成長を抑制することが可能となりました。
- 高信頼性の絶縁材「DSR-2200 ACRシリーズ」とともに、接合材、絶縁材の両方を提供できるタムラだからこそできる、商品同士のシナジーを含め、お客様にご提案してまいります。

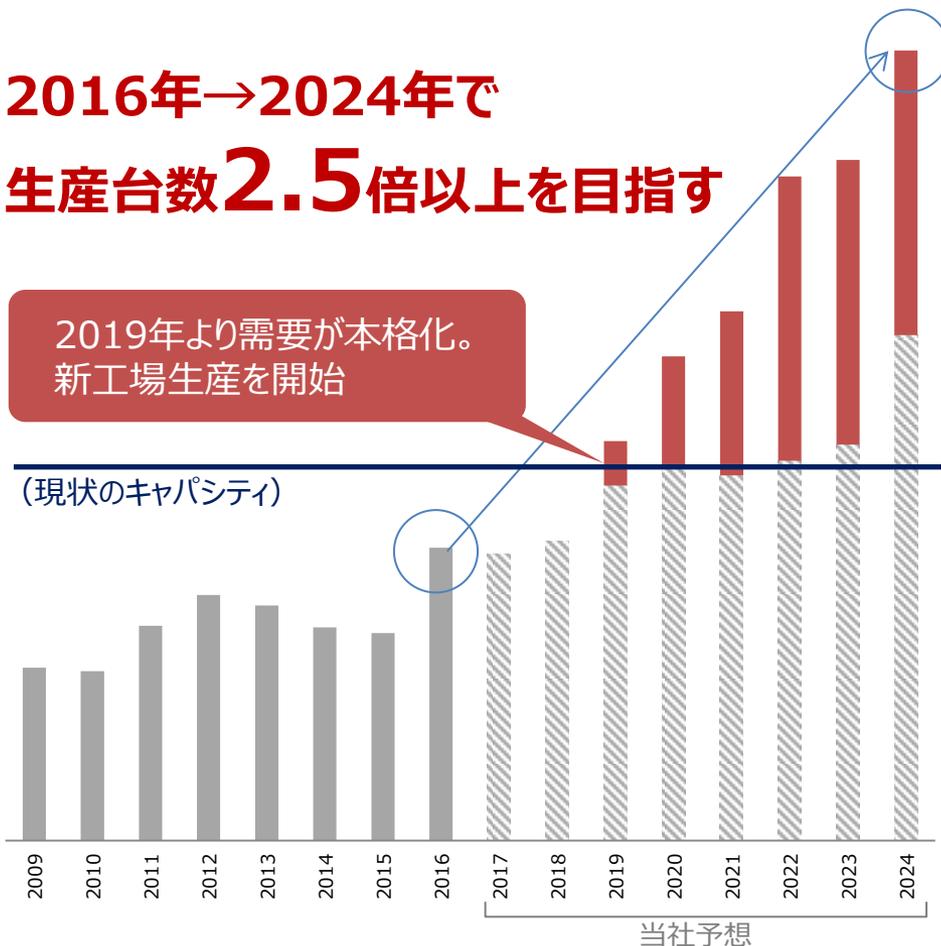
タムラグループ車載用リアクタ生産台数（当社予想）

■ 新工場生産(予定) ■ 従来工場生産

2016年→2024年で
生産台数**2.5倍以上**を目指す

2019年より需要が本格化。
新工場生産を開始

(現状のキャパシティ)



環境車向け昇圧リアクタとは？

- ハイブリッド自動車やプラグインハイブリッド自動車、電気自動車、燃料電池車などの環境対応車を普及させるには、燃費対策だけでなく走行性能や加速性能も求められており、モーターの高出力化が鍵となります。
- そのためには、バッテリー電圧を高めるための昇圧コンバータが必要となりますが、このコンバータの中核を担うのがリアクタです。
- 小型・低損失・低コスト・静音化はもとより、駆動系の部品としてエンジンルームに搭載されることから、高い信頼性が要求されます。



タムラの高信頼性部品

- 車載リアクタ開発の背景には、タムラの高信頼性部品の技術があります。
- 中でも、宇宙開発用の電力系トランス・リアクタでは国内唯一JAXA（宇宙航空研究開発機構）規格認定を取得。
- 人工衛星や打ち上げ用ロケットで活躍しています。



車載参入
2009~

市場本格化
2019~

■ 若柳タムラ製作所（宮城県栗原市）を建て替え 新たな車載用電子部品の量産工場としてリニューアル

若柳タムラ製作所のあゆみ

- 1966年** 若柳町誘致企業第一号として
若柳電子工業株式会社を設立
- ～ 民生用トランス大量生産時代を支える
早期より海外工場立ち上げ支援にも尽力
- 1981年** VTR景気による増産で工場新築
- 1992年** バブル景気が終焉
主要生産拠点は海外にシフトし
自工場の生産は縮小
- 2003年** グローバルERP（MAPS）導入に
いち早く対応し、収益改善活動をリード
- 2011年** 東日本大震災で大きく被災
- 2012年** 商号を株式会社若柳タムラ製作所に変更
- 2016年** 創立50周年
- 2018年** 新工場完成（予定）



設立当初



トランス大量生産時代



女性も海外工場支援へ



東日本大震災で被災



創立50周年

■ 若柳タムラ製作所 新工場概要



名称	若柳タムラ製作所新工場（仮称）
所在地	宮城県栗原市若柳字川南上堤40-1
構造	新築 2階建て（6,200 m ² ）
完成予定	2018年7月
工場建て替えおよび設備投資総額	約17億円

- ハイブリッド車・電気自動車などの将来に向けた需要増加に対応
- 新たな車載用電子部品の生産拠点を設けることで、タムラグループとして危機管理体制を拡充
- 日本の「ものづくり力」維持・強化
- 若柳タムラ製作所は、震災を乗り越え、これからも地域社会と共に成長してまいります。

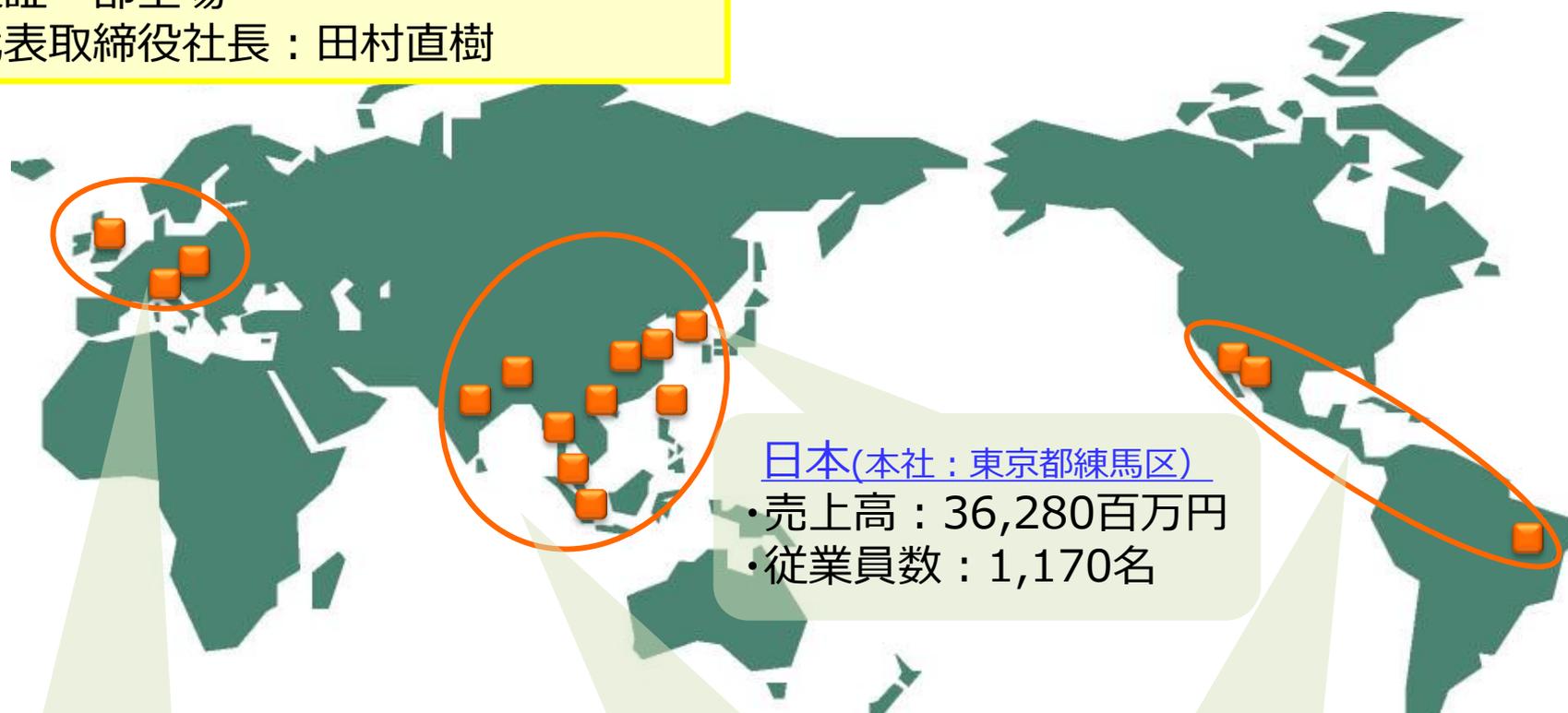
ご清聴ありがとうございました



【付録】 参考資料

資本金：11,829百万円
連結従業員数：5,248名
連結売上高：79,607百万円
東証一部上場
代表取締役社長：田村直樹

売上高：2017年3月期実績
従業員数：2017年3月現在



ヨーロッパ

- ・売上高：6,471百万円
- ・従業員数：271名

アジア

- ・売上高：33,244百万円
- ・従業員数：3,638名

南北アメリカ

- ・売上高：3,610百万円
- ・従業員数：169名

日本(本社：東京都練馬区)

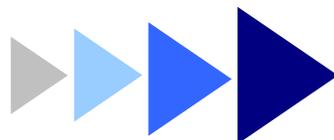
- ・売上高：36,280百万円
- ・従業員数：1,170名

1924年創業

「田村ラヂオ商会」



トランスを**極**める！



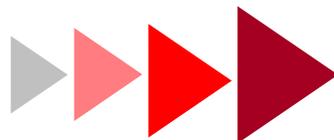
音を**極**める！



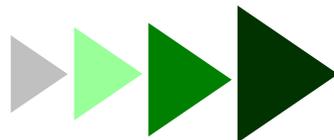
1924年～

ラジオ、蓄音機の製作・販売

接合技術を**極**める！



いい音（信号）を**極**める！



1930年～

トランスの自作化

電子部品関連



- 1956年～ カットコア
磁性材料
- 1956年～ 電源装置
- 1994年～ 圧電トランス
- 2008年～ LED 関連製品

電子化学実装関連



- 1956年～ フラックス
- 1957年～ リグ-ペースト
- 1961年～ レジストインク
- 1968年～ はんだ付装置

情報機器関連



- 1961年～ 放送用
音声調整卓
- 1976年～ 伝送監視装置

電子部品 電子化学薬品 情報機器

航空・宇宙で

航空機からロケット・人工衛星まで、究極の信頼性で社会に貢献しています。



トランス・リアクタ

風力・太陽光発電で

再生可能エネルギーの発電効率向上などに寄与する部品・材料です。



大型トランス・リアクタ



導電性塗布材



白色反射材



フラックス



駅で

発着案内などの情報伝達手段として、音声・表示で鉄道運行を支えます。



サインボード

ワイヤレスマイクホンシステム

街の自動販売機で

表示や商品選択だけでなく、スマホとの連動など最新機能を実現します。



情報表示部

商品選択ボタン

放送局で

視聴者に届ける音声を調整する機器と、局内連絡用の無線システムです。



音声調整機

デジタルワイヤレスカム

エコカーで

高信頼・高効率な部品・材料で、エコドライブや安心・安全を支えます。



車載用リアクタ・コイル

温度ヒューズ付抵抗器 / メタルカット抵抗器



ソルダーレジスト

ソルダーペースト

スマートフォンやタブレットPCで

多機能化・小型化する機器の進化を支える材料です。



導電性ペースト



導電性塗布材

黒色導電材



東京・山形・秋田特産品
 | MAXと並 240g 4.44個箱 |
 | 250g 4.44個箱 |
 | 300g 4.44個箱 |
 | MAXと並 310g 4.44個箱 |

工場

ロボットや工作機械の部品、プリン配線板実装に欠かせない装置が活躍しています。



電圧センサ

リアクタ

セメント基誘導器

はんだ付装置

家庭

エアコンやパソコンで使用され、省エネに寄与し、機器の安全を守る部品です。



電圧センサ

リアクタ

温度ヒューズ / 温度ヒューズ付抵抗器

本資料及び引き続き行われる質疑応答の回答の際の業績予想、見通し及び事業計画については、現時点における将来環境予測等の仮定に基づいております。
本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。

株式会社タムラ製作所 経営管理本部
TEL : 03-3978-2031